



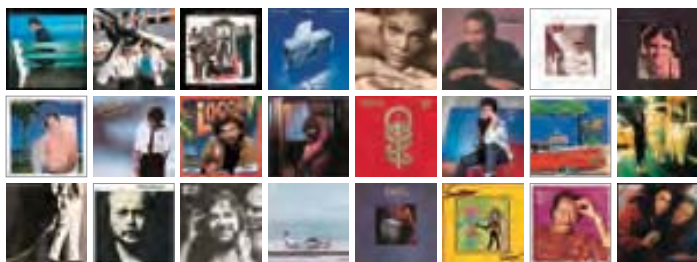
夏と、AORと、

AOR 誕生 40 周年 AOR CITY 1000

期間限定 | 全 100 タイトル | ¥1,000 (税抜)

監修：金澤寿和 イラストレーション：永井博

WWW.SONYMUSIC.CO.JP/AORCITY1000/



7月27日：50タイトル、8月17日：50タイトル発売！



2016年は、元祖AORといわれる『シルク・ディグリーズ/ボズ・スキャッグス』の発売から数えて、ちょうど40周年にあたります。それにちなんで、一気に100枚のAOR作品を低価格で複製する『AOR CITY 1000』シリーズが編成されました。

今はもう“AOR”という呼び名がひとり歩きし、それが“Adult Oriented Rock”の略称であることを知らない世代も出てきているご時世です。当時のAORは単なる音楽的潮流に止まりませんでした。最初はサーファー文化や米西海岸ブーム、80年代に入ってからブランド志向やクリスタル族など様々なヤング・アダルト・カルチャーと結びつき、新しい都市型ライフ・スタイルを生み出しました。それだけに、リアルタイム世代には古き佳き時代の想い出が心に強く残っていることでしょう。一方で、AORが持つ音楽的クオリティの高さは、時代と共に忘れ去られることはなく、世紀が変わるミレニアムの頃にフリーソウル〜レア・グルーヴ方面からの再評価によってAORファンの世代交代が大きく進み、今に至っています。

それでは、そのAORの音楽的魅力、特徴とはなんなのでしょうか？ 広義でいえば、洗練されたオトナのためのポップス/ロック、ということになるでしょう。その“洗練”の重要な要素として、ジャズ、ソウルを中心に、フォーク、ボサノヴァ、カントリなど様々なジャンルのスタイルが注入されていることが挙げられます。そうしたジャンルの配合バランスの違いがアーティストの個性を育て、そのハイブリッドに磨き抜かれたセンスの中から、時代を超える名曲・名盤が産み落とされてきました。だから、サラッと聴き流して心地良く、ジックリ聴き込んでも奥が深い。それゆえに長い年月の経過にも風化せず、むしろ昨今の流行リモノにはない、フレッシュな感性とヴィンテージな音作りの共存が楽しめるワケです。

リアルタイム世代ならとうにご存知でしょうが、元々AORにはT.P.O.(Time, Place, Occasion)にあわせて聴くという楽しみ方がありました。休日の爽やかな朝、グルーミーな雨の午後、ロマンティックな夕暮れ時、そして恋人とのドライブや愛を語らう時のBGMなど…。その時々のお囀りに馴染むアルバムや曲を選んでその場を小粋に演出する、そういう効用があったのです。つまり当時のAORは若者のライフ・スタイルに密着し、それをワンランク、グレード・アップさせてくれる音楽でもありました。この100枚の中から、あなたの毎日の暮らしを素敵に演出してくれるだけでなく、もう一歩進んで、豊かな感性を育てくれる一枚を探してみてください。

Toshikazu Kanazawa / 金澤寿和

www.lightmellow.com

シルク・ディグリーズ **ボズ・スカッグス**
Silk Degrees **Boz Scaggs**

1976



AORがここから始まったといわれる70年代屈指の名盤。60年代から活動が続けていた彼の名を一躍有名にした通算7作目。名曲「ウィアー・オール・アローン」収録。

AORがここから始まったといわれる70年代から音楽活動を始め、評価を高めていたボズ・スカッグスの名を一躍世界的なものにした通算7作目。全米アルバム・チャートで2位を記録。ジェフ・ポーカロ(ds)やデヴィッド・ヘイチ(p)など、後にTOTOとしてデビューする脱リキミュージシャンが奏でるスムーズで洗練されたサウンドとボズのシブいソウルフルな歌声で、アダルト・コンテンポラリーというジャンルを一気に世に広めた。グラミー賞を受賞した「ロウタウン」(全米3位)、ボズの代名詞的なバラード「ウィアー・オール・アローン」を収録。このアルバムからTOTO、レス・デューテックという新しいミュージシャンを誕生させた。

SICP 4840 | リマスタリング:2006年 解説:金澤寿和 |

ダウン・トゥー・ゼン・レフト **ボズ・スカッグス**
Down Two Then Left **Boz Scaggs**

1977



歴史的な名盤「シルク・ディグリーズ」の大ヒットによって一躍シーンに躍り出した通算8枚目。ボズのギターが堪能できる傑作アルバム。

歴史的な名盤『シルク・ディグリーズ』の大ヒットによってAORを代表するアーティストとなったボズ・スカッグスの通算8作目(全米アルバム11位)。後にクリストファー・クロスのデビュー作を手がけるリズム・ヘリテイジのマイケル・オマーティアン、前作に続きジェフ・ポーカロ(ds)、新たにステイヴ・ルカサー(g)、ジェイ・グレイドン(g)などの錚々たるミュージシャンが参加し、前作以上にタイトなバンド・サウンドにボズの円熟したヴォーカルが絡み素晴らしい完成度を誇るアルバムとなった。「ハード・タイムス」「ハリウッド」がシングル・カットされた。前作よりR&B色が濃く、編曲も複雑になり大人好みに仕上がった。

SICP 4841 | リマスタリング:2005年 解説:山崎裕久 |

ミドル・マン **ボズ・スカッグス**
Middle Man **Boz Scaggs**

1980



新しく鮮烈なスピリットを感じさせるボズのAOR三部作の掉尾を飾る名盤。プロデュースに新たにビル・シュネイを迎え、アレンジにデヴィッド・フォスターを起用。

『シルク・ディグリーズ』『ダウン・トゥー・ゼン・レフト』、そして本作はAOR三部作と呼ばれ、ボズ・スカッグスは人気の絶頂を迎える。プロデュースのビル・シュネイ、デヴィッド・フォスターの指揮のもと、さらに洗練を極め、メリハリの効いたハイセンスなサウンドは、ジェフ・ポーカロ(ds)やデヴィッド・ハンゲイト(b)、ステイヴ・ルカサー(g)、レイ・パーカー・Jr.(g)らが参加。「フレックダウン・デッド・ヘッド」(全米15位)、「ジョジョ」(全米17位)がシングル・カットされ、アルバムは全米8位にランキングされた。当時2度目の来日公演もあり、テレビでもその公演の中継されアルバムもベスト・セラーとなった。カルロス・サンタナのパフォーマンスも聞きがせない。

SICP 4842 | リマスタリング:2005年 解説:中田利樹 |

ロマンティック エアプレイ
Airplay **Airplay**

1980



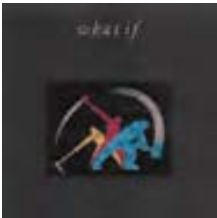
AORの金字塔! 若きデヴィッド・フォスター(key)とジェイ・グレイドン(g)が組んだ伝説のスーパー・ユニット、唯一のアルバム。

今やグラミー賞常連プロデュースとして名高い若き日のデヴィッド・フォスターと、ステイヴ・ルカサーとの名演などで知られる人気ギタリスト、ジェイ・グレイドンが組んだスーパー・ユニット唯一のアルバム。レコーディングには、ステイヴ・ルカサー(g)やジェフ・ポーカロ(ds)などTOTOの面々が筆頭に西海岸の一流ミュージシャンが勢揃いし、ヴォーカルには後にボストンに参加するトミー・ファンダーパークをフィーチャーしている。本国以上に日本で絶大な支持を得て、AORのマスターピースとして人気を獲得している。ジェイ・グレイドン自らによる2010年リマスタリング音源を使用。

SICP 4843 | リマスタリング:2010年 解説:中田利樹 |

ホワット・イフ ホワット・イフ
What If **What If**

1987



“ヴォイス・オブ・エアプレイ”=トミー・ファンダーパーク(vo)が、シーウィンドのボブ・ウィルソン(ds)とラリー・ウィリアムス(key/sax)と組んだユニット、唯一のアルバム!

“ヴォイス・オブ・エアプレイ”と呼ばれ、エモーショナルなハイトーン・ヴォーカルで熱心なファンを多く持つトミー・ファンダーパーク(vo)が、シーウィンドのボブ・ウィルソン(ds)とラリー・ウィリアムス(key/sax)と組んだスーパー・ユニット。80年代後半らしく打ち込みも多用しながら、骨太で硬質なメロディアスかつハードなロック寄りのサウンドを提示。爽快なタイトル曲を筆頭に、アルバム全編を通じて人気ギタリスト、マイケル・ランドウのクリアなギターが冴えわたる。残念ながら、このユニットは本作だけで終了し、各々のソロ活動へと戻っていった。

SICP 4844 | リマスタリング:2000年 解説:中田利樹 |

独身貴族 **ビル・チャンplin**
Single **Bill Champlin**

1978



デヴィッド・フォスターをプロデューサーに迎え、ステイヴ・ルカサーなどTOTOのメンバーやジェイ・グレイドンと共演、しゃれたロック・サウンドと温かなヴォーカルが堪能できる極上の一枚。

自身のバンド「サンズ・オブ・チャンplin」解散後のソロ・デビュー・アルバム。プロデューサーに盟友デヴィッド・フォスターを迎え、ステイヴ・ルカサー(g)、ジェイ・グレイドン(g)などの気鋭のギタリスト、TOTOからはジェフ・ポーカロ(ds)、デヴィッド・ハンゲイト(b)、ドゥービー・ブラザーズのマイケル・マクナルドラが参加、このヴォーカリストのソロ・フライトを祝福している。ファンキーなナンバーから泣きのバラードまで職人気質のヴォーカル・ワークで高く評価された第一級のアルバム。ポップ、ロック、ジャズ・フュージョンと何でもこなせる稀有のアーティストだ。

SICP 4845 | リマスタリング:2005年 解説:金澤寿和 |

デイン・ドナヒュー **デイン・ドナヒュー**
Dane Donohue **Dane Donohue**

1978



最初で最後のアルバム。彼自身シンガー・ソングライターであるだけに歌にこだわり、デインの世界観を見事に救い上げた一作。AORの隠れた名盤。

1948年、オハイオ州に生まれる。興味をもったのがカントリー・ミュージックで、ティーンエイジャーの頃はロックンロール・バンドに仲間入りしたという典型的な音楽少年だった。70年には「ジーザス・クライスト・スパースタ」のオーディションを受け合格、2年間全米各地へヨーロッパを巡業している。その後CBSのオーディションを受けデビューとなった。アルバムにはアーニー・ワッツ(sax)、ステイヴ・ガッド(ds)、ラリー・カールトン(g)、チャック・レイニー(b)、マイク・ポーカロ(b)、ヴィクター・フェルドマン(vib)、バック・コーラスはドン・ヘンリー、ティモシー・シュミットのイギリス勢のほかクリス・ウィー・ニコックス、J.D.サウザーなどが参加している。

SICP 4846 | リマスタリング:2005年 解説:藤川哲朗 |

チェンジング・タイド **ナイジェル・オルソン**
Changing Tides **Nigel Olsson**

1980



エルトン・ジョンとの活動で知られるドラマー/シンガーのソロ4作目。ほぼすべての楽器をひとりで録音した職人気質のポップ・アルバム。待望の世界初CD化!

英国出身、1949年生まれの前ドラマー/シンガー。エルトン・ジョンのバンドのドラマーとしても知られる。1975年ソロ・デビュー後、活動の拠点をアメリカに移し、1979年には「涙のダンシング・シューズ」が全米18位のスマッシュ・ヒットを記録した。本作は4枚目のアルバムで、ほぼすべてのレコーディングをひとりで行ったポップな作品。デヴィッド・フォスター&ジェイ・グレイドンによる甘いバラード「シュート・ウィ・キャリーオン」は、エアプレイのアルバムにも収録されている。他にも、「アイランド・ナイト」のトニー・シュートがソングライターとして参加。

SICP 4847 | **世界初CD化** | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

夜明けのダンサー **チャイナ**
China **China**

1981



カナダ出身の3人組の唯一の作品。透明感のあるコーラスと変幻自在のギターが絡む、AORファンなら避けて通れない佳作。

AORの宝庫=カナダ出身の3人組の唯一の作品。メンバーはリーダー格のビル・キング(key/vb)、ダニー・マクブライド(g/vb)、クリス・キーニー(vo)。アレンジャーにジェイ・グレイドンを迎え、レコーディングはリー・リトナー(g)、アンディ・ニューマーク(ds)、エイブラム・ラボリエル(b)といった豪華な布陣。透明感のあるコーラスと変幻自在のギターが絡み合う、AORファンなら避けて通れない佳作。オープニングを飾る「ユークン・トリート・ラヴ」は感傷的なメロディが余韻を残すAOR屈指のバラード。オリジナルLPのジャケットは陰翳のマークをシンプルにしらったものだったが、日本仕様に変更されている。

SICP 4848 | リマスタリング:2005年 解説:金澤寿和 |

ストレンジャー・イン・バラダイス **ドウェイン・フォード**
Needless Freaking **Dwayne Ford**

1981



良貨 AORの宝庫、カナダ出身のソングライターの初ソロ作。同郷のD・フォスターがプロデュースし、J・グレイドン、J・ポーカロ、S・ルカサーらが脇を固めるAOR純度の高い人気作。

1953年、カナダ生まれのシンガー・ソングライター/キーボード奏者。ティーン頃からバンド活動を開始し、アルバム数枚を残した後、映画音楽の世界に転身する。80年代に入り同郷カナダ出身で旧知の仲であったデヴィッド・フォスターがサポートし、このソロ・デビュー作が実現。本作はフォスターのプロジェク、エアプレイが発表された直後に制作された。フォスターがプロデュースを務め、盟友ジェイ・グレイドン(g)はもちろん、ジェフ・ポーカロ(ds)やステイヴ・ルカサー(g)らTOTO一派などトップミュージシャンが勢揃い。AOR純度の高い名作として、日本では特に人気が高い。

SICP 4849 | リマスタリング:2010年 解説:金澤寿和 |

モダン・ポップ **ダリル・ホール&ジョン・オーツ** 1979



X-Static **Daryl Hall & John Oates**

来るべき80年代の大ブレイクを予感させる会心作。デヴィッド・フォスターがプロデュースした名演「ウェイト・フォー・ミー」を収録！

SICP 4850 | リマスタリング:2010年 解説:東ひさゆき |

モダン・ヴォイス **ダリル・ホール&ジョン・オーツ** 1980



栄光の80年代の幕開けを飾る彼らの代表作のひとつ。「キッス・オン・マイ・リスト」(全米1位)をはじめ、H&O流「ロック&ソウル」なヒット曲が満載！

1972年にデビューした人気デュオ、ホール&オーツの栄光の80年代の幕開けを飾る作品。70年代の試行錯誤の末にたどり着いたホール&オーツ流ロック&ソウルの結晶として、全米アルバム・チャートで100週以上ランクインされ、ミリオンセラーを記録した。アルバム・リリースの翌年にシングル・カットされた「キッス・オン・マイ・リスト」は全米チャートで3週にわたり1位を獲得。他にもライチャス・ブラザーズの「ふられた気持ち」のカヴァーや、後にポール・ヤングが歌って全米No.1を獲得したバラード「エヴリタイム・ユー・ゴー・アウェイ」を収録。

SICP 4851 | リマスタリング:2010年 解説:栗本齊 |

ラヴ・コーリン **デニス・ウィリアムス** 1979



ディスコからバラードまでキュートな歌声が全開！カリンバの歌姫がデヴィッド・フォスターとレイ・パーカーJr.のプロデュースで大きく飛躍した人気作、待望の再発。

1951年、インディアナ州生まれ。1976年、モーリス・ホワイトがバックアップしてカリンバ・レコードよりデビュー。「プリー」が全米25位/R&B2位まで上昇するヒットになり一躍注目を集めた。この4作目はデヴィッド・フォスターとレイ・パーカーJr.の2人がプロデュース。ジェフ・ポーカー(d)やステイヴ・ルカサー(g)、デヴィッド・ハンゲイト(b)らTOTO一派を中心に美カ派ミュージシャンが大挙参加。ディスコ・チャートでNo.1を獲得した「ネクスト・ダグズ」や「アイ・ファウンド・ラヴ」などキャッチーなナンバーからせつないバラードまで、2人のプロデューサーの個性が遺憾なく発揮されている。

SICP 4852 | リマスタリング:2010年 解説:林剛 |

フレンズ・イン・ラヴ **ディオンヌ・ワーウィック** 1982



ジェイ・グレイドンをプロデューサーに迎え、洗練されたAORにチャレンジした傑作！西海岸を代表するミュージシャンが勢揃いし、ティンパの脇を固めている。

ポピュラー音楽史上最も優れたシンガーに数えられるティンパが、各ギタリストのジェイ・グレイドンをプロデューサーに迎えて制作し、今なおAORファンから絶大な支持を得るアルバム。グレイドン/フォスター/チャンサーの最強チームによるタイトル曲、ステイヴィー・ワンダーが書いた「ウィズ・ア・タッチ」などオリジナル曲に加え、EW&Fの「キャント・ハイド・ラヴ」などカヴァー曲も。グレイドンをはじめ、デヴィッド・フォスター(p)、ラリー・カールトン(g)、ステイヴ・ルカサー(g)、ジェフ・ポーカー(d)など西海岸を代表するミュージシャンが参加している。

SICP 4853 | リマスタリング:2001年 解説:中田利樹 |

ハートブレイカー **ディオンヌ・ワーウィック** 1982



ビー・ジーズと夢のコラボが実現！ビー・ジーズならではの繊細なコーラスを活かし、ゴージャスなアダルト・コンテンポラリーに仕上がっている。

60年代からパート・バカラックとのコンビで数多くのヒットを放ち、ポピュラー音楽史上最も優れた女性シンガーのひとりに数えられる。本作ではビー・ジーズとの全面的なコラボが実現し、前作「フレンズ・イン・ラヴ」からわずか半年後にリリースされた。ビー・ジーズならではの繊細なコーラスを活かしたゴージャスな楽曲は幸福感に満ち溢れている。ラリー・ギブが書き下ろした「ハートブレイカー」は全米10位まで上昇。この後も、ステイヴィー・ワンダーとの共演「イツ・ユー」や、バカラックと再び組んだチャリティソング「愛のハーモニー」などヒットが続く。

SICP 4854 | リマスタリング:2016年 解説:波多野寛昭 |

誓いのセიმ・タイム **レイ・パーカーJr. & レイディオ** 1980



Two Places At The Same Time **Ray Parker Jr. & Raydio**

ミスター・ブラコン、会心の一撃！ステイヴィー・ワンダーをはじめ多くのミュージシャンを虜にした必殺ギター・カッティングが炸裂するサーファー・ディスコの定番「パーティ・ナウ」を収録。

1954年、テロイト生まれ。地元モータウン・レコードのセッションと呼ばれるほどのギター腕前で、ステイヴィー・ワンダーのバックバンドに抜擢され、一躍音楽業界でその名が知れわたる。L.A.に拠点を移し数々のセッションを経験し、1978年に自身のグループ、レイディオを率いてデビューを果たし、いきなり「ジャック&ジル」がトップテン入りするヒットを記録。3枚目にあたる本作からも、全米30位まで上がったタイトル曲や、サーファー・ディスコの定番曲「パーティ・ナウ」などヒットが次々に生まれた。

SICP 4855 | リマスタリング:2009年 解説:林剛 |

ウーマン・ニーズ・ラヴ **レイ・パーカーJr. & レイディオ** 1981



A Woman Needs Love **Ray Parker Jr. & Raydio**

ポップでキャッチーなメロディーと甘くセクシーな歌声で、世の女性の間で一世を風靡したミスター・ブラコンの代表作！もちろんAORファンにとっても必携の一枚。

1954年、テロイト生まれ。ステイヴィー・ワンダーのバックバンドに抜擢されたことをきっかけに音楽業界でその名が知れわたる。1978年に自身のグループ、レイディオを率いてデビューを果たし、いきなり「ジャック&ジル」がトップテン入りするヒットを記録。本作は4作目にあたり人気を決定づけたベストセラー。R&Bチャートで1位(全米4位)を獲得した「ウーマン・ニーズ・ラヴ」のライトでオシャレなサウンドは「ブラコンの聖典」としてAORまでを虜にした傑作。他にも「プリズ Mr. DJ」など、この時期のレイ・パーカー・サウンドの集大成といえるアルバムだ。

SICP 4856 | リマスタリング:2009年 解説:安斎明定 |

パルス **グレッグ・フィリングインズ** 1984



Pulse **Greg Phillinganes**

マイケル・ジャクソン、エリック・クラプトンら多くのスーパースターから最も信頼されるキーボード奏者のソロ2作目。MJのYMOカヴァー「ハイランド・ザ・マスク」を収録！

キーボード奏者としてステイヴィー・ワンダー、クインシー・ジョーンズ、マイケル・ジャクソン、エリック・クラプトンらのレコーディングや、ツアーのバンド・マスターとして活躍。2000年代にはTOTOにも正式加入した。本作は2枚目のソロ・アルバム。マイケル・ジャクソンの「スリラー」に収録される予定だったといわれるYMOの「ハイランド・ザ・マスク」をカヴァー。「レイジー・ニーナ」はステイヴィー・ワンダーのドナルド・フェイゲンが書き下ろし。

SICP 4857 | リマスタリング:2008年 解説:金澤寿和 |

メナジェリィ **ビル・ウィザース** 1977



「エイント・ノー・サンシャイン」、「リーン・オン・ミー」などで知られるソウル吟遊詩人、70年代後半の代表作。今やスタンダード曲となった「ラヴリー・デイ」を収録。

1938年、ウェストヴァージニア州の小さな炭鉱町で生まれ、軍隊生活の後、L.A.で音楽活動を始める。1971年にデビュー。本作は今やスタンダードと言っても過言でない「ラヴリー・デイ」を筆頭に、良曲がたっぷりと収録された6作目。プロデューサーにクラレンス・マクナルド、クリフォード・コールターを起し、レイ・パーカーJr.(g)、ケニパーク(b)、ラス・カンケル(ds)らがバックを固める。この後、クローヴァー・ワントンJr.との共演曲「クリスタルの恋人たち」が大ヒットレームを巻き起こすも、1985年に音楽活動を休止。今もカムバックを望む声が続かない。

SICP 4858 | リマスタリング:2003年 解説:林剛 |

ウォッチング・ユー、ウォッチング・ミー **ビル・ウィザース** 1985



「クリスタルの恋人たち」の後、デヴィッド・フォスター、ラリー・カールトンらが参加して制作。都会的で洗練されたサウンドと、朴訥とした歌声が相俟ってワン&オンリーな作品に仕上がっている。

1938年、ウェストヴァージニア州の小さな炭鉱町で生まれ、軍隊生活の後、L.A.で音楽活動を始める。1971年にデビュー。1985年リリースの本作には、デヴィッド・フォスター(key)、ラリー・カールトン(g)、ネイスン・イースト(b)、ラルフ・マクナルド(perc)といった腕自慢のスタジオ・ミュージシャンが集められたが、ゆったりとした都会的な情緒を持ったビルのはまりはそのまま。リラックスしたムードの中で、ビル流のアダルト・コンテンポラリーに仕上がっている。家族と過ごす時間を大切にしたいという理由から、このアルバムを最後に音楽活動を休止した。

SICP 4859 | リマスタリング:2016年 解説:安斎明定 |

この熱き腕の中に **エンゲルベルト・フンパーディンク**
Don't You Love Me Anymore? **Engelbert Humperdinck**

1981



ニック・デカロ、ジェイ・グレイドン、デヴィッド・フォスターらAORシーンの重要ミュージシャンたちを迎えて録音した隠れ名盤。待望の日本初CD化!

1936年、インドで生まれ、英国に移住。60~70年代、情熱的なバラードでトム・ジョーンズと共に女性を中心に絶大な人気を誇り、「リリース・ミー」や「ラスト・ワルツ」「太陽は燃えている」など世界的なヒット曲を放っている。本作はプロデューサーにニック・デカロ、アレンジャーにジェイ・グレイドンを迎え、オーブニングからデヴィッド・フォスター(key)、グレイドン(g)、ジェフ・ボーカー(d)という最高峰のメンバーで極上のアンサンブルを聴かせてくれる。ブルース・ロバーツ、キャロル・ヘイヤー・セイガー、ゲイリー・ポートノイなどAORシーンのキーマンが楽曲を提供している。

SICP 4860 | **日本初CD化** | リマスタリング:2003年 解説:中田利樹 |

ウォーク・ア・ファイン・ライン **ポール・アンカ**
Walk A Fine Line **Paul Anka**

1983



「ダイアナ」「マイ・ウェイ」などで知られる大御所が、デヴィッド・フォスター、ジェイ・グレイドン、マイケル・マクドナルドらと共に作り上げた繊細かつドラマティックなAOR作品集。

50年代から「ダイアナ」や「君は我が運命」「マイ・ウェイ」など多くのヒット曲を生み出してきたシンガーにして、名ソングライター。70年代には同郷でもあるカナダ出身のデヴィッド・フォスターの才能をいち早く見出した。1983年、42歳の時にリリースした本作は、フォスター、ジェイ・グレイドン、マイケル・マクドナルドが揃って制作に参加。スティーヴ・ルカサー(g)、ジェフ・ボーカー(d)らTOTOのメンバーが脇を固め、ピーター・セテラ(シカゴ)やケニー・ロギンズらがコーラスで花を添えている。繊細かつドラマティックなAORらしさが詰まった作品。

SICP 4861 | | リマスタリング:2010年 解説:金澤寿和 |

ラヴ・オール・ユア・ブルース・アウェイ **ルー・ロウルズ**
Love All Your Blues Away **Lou Rawls**

1986



超ベテランがプロデューサーにジェイ・グレイドンを迎え、最新のAORとスタンダード・ジャズをミックスした異色作。今回グレイドン自らのリマスタリングで、世界初CD化が実現!

1933年、シカゴ生まれ(2006年没)。幼い頃から教会で歌い、高校時代あのサム・クックと同級生だったというのは有名な話。1962年にデビューし、「ウェルヴェットのようなスムーズな歌声とジャズ~ソウルの要素をミックスしたスタイルで「別れたくないのに」(全米2位)など多くのヒットを残した。本作はレコードのA面にAOR楽曲、B面にジャズスタンダードを配した異色作。プロデューサーにジェイ・グレイドンを迎え、デヴィッド・フォスターやリチャード・ペイジ、ロビー・ネヴィルらが参加している。なお今回の初CD化にあたり、グレイドン自らがリマスタリングを行っている。

SICP 4862 | **世界初CD化** | リマスタリング:2016年 解説:中田利樹 |

ナイツ **ビリー・オーシャン**
Nights D'Feel Like Getting Down **Billy Ocean**

1981



英国人プロデューサー、ナイジェル・マルティネスによる3作目。都会的でエレガントな英国産バラコンとして人気一枚。全米R&B7位のヒット「ナイツ」収録。

1950年、カリブ海の島国、トリニダード・トバゴ生まれ。少年時代に英国に移住し、音楽活動を始める。本作はナイジェル・マルティネスのプロデュースによる3枚目のリーダー・アルバム。ケン・ゴールドとの共作による「フーズ・ゴナ・ロックス・ユ」はノーランズに提供したヒット曲をセルフ・カヴァー。ディスコからアーバン・ソウルまで、都会的で洗練された英国産バラコンとして評価が高い一枚。タイトル曲が全米R&Bチャートで7位にランキングされたことをきっかけに、この後「カリビアン・クイーン」「サトゥンリー」など世界的なポップ・ヒットを量産していく。

SICP 4863 | | リマスタリング:2016年 解説:林剛 |

デビュー! **プリス・バンド**
Dinner With Raoul **The Bliss Band**

1978



ポール・プリスを中心とする5人組のデビュー作。ジェフ・バクスターをプロデューサーを迎え、ひねりの効いた演奏に、ソウルフルなヴォーカルが魅力的な作品。

近年ではセリーヌ・ディオンや松田聖子らに楽曲を提供し、ソングライターとして知られるようになったポール・プリス(key)を中心とする5人組のデビュー作。ロンドンでスタジオ・ミュージシャンとして活動していた彼らがアメリカに漂り、ジェフ・バクスターをプロデューサーを迎え制作された本作は、ステイリー・ダンにも通じるひねりの効いた演奏をバックに、ソウルフルなヴォーカルを聴かせる。ドゥービー・ブラザーズのマイケル・マクドナルドやキース・ヌードセン、タワース・オブ・パワーのホン隊もゲスト参加。ポール・プリスは90年代にムーディー・ブルースのメンバーとしても活躍した。

SICP 4864 | | リマスタリング:2005年 解説:中田利樹 |

ネオン・スマイルズ **プリス・バンド**
Neon Smiles **The Bliss Band**

1979



前作のステイリー・ダン路線から一転、ポップ・ロック色を強めたバンド・サウンドを打ち出し、シャープなリズムとメロウなメロディーのコンビネーションが極上の一枚。

後に数々のヒット曲を生んだ名ソングライター、ポール・プリス(key)を中心に結成された英国出身の5人組。ポール以外のメンバーも、様々なアーティストのバックやレコーディングを務めた腕利き揃い。この2ndアルバムでは前作のステイリー・ダン路線から一転、ポップ・ロック色を強めたバンド・サウンドを打ち出した。エイミー・ホーランドやイングリッド・ダン・シールズ、ノーランズなど様々なアーティストにカヴァーされた「ハワ・ドゥ・アイ・サヴァイヴ?」など、幅広いアーティストに愛される楽曲を多く収録している。シャープなリズムとメロウなメロディーのコンビネーションが極上の一枚。

SICP 4865 | | リマスタリング:2016年 解説:中田利樹 |

ファー・クライ **ファー・クライ**
The More Things Change **Far Cry**

1980



ドナルド・フェイゲンをはじめ、ウィル・リー、クリス・パーカーなどステイリー・ダン人脈の凄腕ミュージシャンが多数参加! コーラス・ワークが心地よいAORファンから人気一枚。

フィル・ゴールドストーン(NY出身)とピーター・トム(スコットランド生まれ、カナダ・モントリオール育ち)がデュオ「ゴールドストーン&トム」として1977年にデビューした後、グループ名を「ファー・クライ」と改名してリリースした唯一のアルバム。ステイリー・ダンなどを手がけたエリオット・シャイヤーがプロデュース。レコーディングには、ステイリー・ダンのドナルド・フェイゲン(cho)やロブ・マウンジー(syn)、ウィル・リー(b)、クリス・パーカー(ds)ら凄腕ミュージシャンが勢揃い。2人の開放感のあるコーラス・ワークが心地よく響く、AORファンに人気一枚。

SICP 4866 | | リマスタリング:2001年 解説:金澤寿和 |

ハード・キャンディ **ネッド・ドヒニー**
Hard Candy **Ned Doheny**

1976



ボズ・スカッグスとジャクソン・ブラウンの魅力を一占め。ナイーブな優しさでシャれたサウンドが暖かく包む。あくまで明るいアルバム・カヴァーも秀逸な名盤。

1948年ロサンゼルスで生まれる。ジャクソン・ブラウンと共にアサイラム・レコードの契約第1号アーティストとして1973年にデビュー。本作は米コロムビア移籍第1弾にしてAORの名盤。プロデューサーにソウルの名門レーベル、スタッフスで数々のレコーディングに参加したギタリスト、スティヴ・グロウパーを起用、ドヒニーのソウル風味を巧みに料理し、小粋でシャれた作品に仕上げている。バックコーラスでドン・ヘンリー、グレン・フライ、リンダ・ロンシュタット、J.D.サウザーらが参加、若き日のデヴィッド・フォスターの名前もクレジットされている。名曲「恋は幻(Get It Up For Love)」はカヴァー・ヴァージョン多数。

SICP 4867 | | リマスタリング:2005年 解説:天辰保文 |

ファースト **シルヴァー**
Silver **Silver**

1976



美しいコーラス・ワーク&タイトなサウンドで、AORの扉を開いたウエストコーストの5人組、唯一のアルバム。エヴァーグリーンな大ヒット「恋のパンジャガラン」収録。

エリック・アンダーソンのレコーディングで、ジョン・バドロフ(vo/g)とブレント・ミッドランド(vo/key)が出会い結成。その他のメンバーにイーグルスのバーニー・リードンの実弟、トム・リードン(vo/b)も名を連ねている。エヴァーグリーンな大ヒット「恋のパンジャガラン(Wham Bam)」(全米16位)。「音楽で食べていくのは簡単なことじゃない」と歌ったバラード「ミュージシャン」などを収録。AORの時代の幕開けを感ぜさせる瑞々しい名盤。

SICP 4868 | | リマスタリング:2006年 解説:森川哲朗 |

ユア・オンリー・ロンリー **J.D.サウザー**
You're Only Lonely **J.D. Souther**

1979

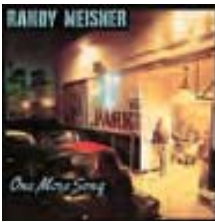


ジャクソン・ブラウンと共に西海岸を代表するシンガー・ソングライター、J.D.サウザーが放った米コロムビア移籍第一弾。シンプルかつ質感溢れる成熟した男の世界を描き出す名盤。

1945年、テロロイト生まれ、テキサスで育つ。6人目のイーグルスと呼ばれジャクソン・ブラウンと共にアサイラム・レコードよりデビューを果たす。本作は米コロムビアからのデビュー作(通算3枚目)。敬愛するロイ・オービンへのオマージュといわれる表題曲は全米7位(アルバム・コンテンポラリー1位)の大ヒットを記録した。リンダ・ロンシュタットが取り上げた「ホワート・リズム&ブルース」、ニコレッタ・ラーソンに提供した美しいバラード「ラスト・イン・ラヴ」などが収録されている。バックも彼の人脈で固め、ジャクソン・ブラウン、ワディ・ワウテル(g)、ダニー・コチマー(g)、デヴィッド・サンボン(sax)、ドン・ヘンリー、ドン・フェルダ、ジョン・セバスチャン、フィル・エヴァリーなど様々なメンバーが参加している。

SICP 4869 | | リマスタリング:2005年 解説:山崎隆久 |

ワン・モア・ソング ランディ・マイズナー 1980



ワン・モア・ソング ランディ・マイズナー
One More Song Randy Meisner
1980
ポップで爽やかなメロディーが日本のAORファンの間で評判を呼んだ、イギリスのオリジナル・メンバーであるランディの2枚目となるソロ・アルバム。

SICP 4870 | リマスタリング:2005年 解説:森川哲朗 |

ダディーズ・スマイル ジェームス・テイラー 1981



ダディーズ・スマイル ジェームス・テイラー
Dad Loves His Work James Taylor
1981
西海岸のミュージシャンたちが脇を固め、アルバム全体を繊細で優しく、リラックスした雰囲気で見事に代表する作品。

SICP 4871 | リマスタリング:2002年 解説:山崎逸久 |

三面鏡 リヴィングストーン・テイラー 1978



三面鏡 リヴィングストーン・テイラー
3-Way Mirror Livingston Taylor
1978
エピック移籍第一弾となった4作目。メランコリーやユーモア、ロマンティシズムといったリヴの持ち味が静かに感じられる優しいAORアルバム。

SICP 4872 | リマスタリング:2006年 解説:森川哲朗 |

マンズ・ベスト・フレンド リヴィングストーン・テイラー 1980



マンズ・ベスト・フレンド リヴィングストーン・テイラー
Man's Best Friend Livingston Taylor
1980
オーリアンズの「ダンス・ウィズ・ミー」などがカヴァー曲を中心に、ソウルフルなポップ・サウンドで新境地を開拓した5作目。

SICP 4873 | リマスタリング:2006年 解説:天辰保文 |

ナイトウォッチ ケニー・ロギンス 1978



ナイトウォッチ ケニー・ロギンス
Nightwatch Kenny Loggins
1978
新たなケニー・ロギンス像を確立したソロ2作目。ポプ・ジェームスのプロデュースで、当時のフュージョン・シーンにもつながる傑作。

SICP 4874 | リマスタリング:2010年 解説:波多野寛昭 |

ハイ・アドヴェンチャー ケニー・ロギンス 1982



ハイ・アドヴェンチャー ケニー・ロギンス
High Adventure Kenny Loggins
1982
ロギンス&メッシーナ解散後4作目のスタジオ・アルバム。80年代に突入し、都会的なポップ・ロック色を強めたAORの代表作。

SICP 4875 | リマスタリング:2010年 解説:天辰保文 |

オアシス ジミー・メッシーナ 1979



オアシス ジミー・メッシーナ
Oasis Jimmy Messina
1979
ロギンス&メッシーナ解散後、久しぶりにシーンに登場したアルバム。都会的なジャズを消化したリラックスで多才な才能を感じさせ、彼のギターが堪能できる。

SICP 4876 | リマスタリング:2005年 解説:天辰保文 |

愛はすくそばに ヴァレリー・カーター 1977



愛はすくそばに ヴァレリー・カーター
Just A Stone's Throw Away Valerie Carter
1977
柔らかな髪、透き通るような青いひとみ、噂のシティ・ガールといわれたヴァレリーのデビュー作。EW&Fのモーリス・ホワイト、ジョージ・マッセンバークのプロデュースの下、シティ感覚溢れるAOR。

SICP 4877 | リマスタリング:2005年 解説:森川哲朗 |

ささやく夜 カーラ・ボノフ 1979



ささやく夜 カーラ・ボノフ
Restless Nights Karla Bonoff
1979
前作のアルバム「カーラ・ボノフ」が好評で期待が高まったセカンド・アルバム。ウエストコーストの永遠の恋人がさらにグレードアップしたAORの傑作盤。

SICP 4878 | リマスタリング:2005年 解説:森川哲朗 |

麗しの女へ響りはバイオレット カーラ・ボノフ 1982



麗しの女へ響りはバイオレット カーラ・ボノフ
Wild Heart Of The Young Karla Bonoff
1982
大ヒットした「ささやく夜」以来2年ぶりのアルバム。彼女の制作スタイルを貫き、清楚な美しさとそのヴォーカルでファンを魅了した3枚目。

SICP 4879 | リマスタリング:2007年 解説:天辰保文 |

アイ・ゴー・クレイジー ポール・デイヴィス

Singer Of Songs - Teller Of Tales Paul Davis

1977



5作目にあたる彼の代表作で、シングル「アイ・ゴー・クレイジー」は全米チャート最高7位を記録。ウエストコースト的なレイドバックした雰囲気 が 充満した作品。

1948年、ミシシッピ州生まれ。60年代後半にカントリーの世界でソングライターとして注目を集め、その後1970年にソロ・デビュー。本作は5作目にあたる彼の代表作で、オープニングの「アイ・ゴー・クレイジー」は全米チャート最高7位まで上昇し、40週連続してチャートインするロングセラーになった。後にこの曲は映画『なんとなく、クリスタル』(原作は田中康夫)のテーマで使用され話題を呼んだ。他にもビニー・ホーズのカヴァー曲「ダーリン」など、ウエストコースト的なレイドバックした雰囲気が充満したアルバムになっている。デイヴィスは2008年、60歳で亡くなっている。

SICP 4880

日本初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

パステル・メッセージ ポール・デイヴィス

Paul Davis Paul Davis

1980



誠実な歌声と、派手さは無いが忘れがたいメロディーの妙により、愛すべきAOR作品となった6枚目のアルバム。

1948年、ミシシッピ州生まれ(2008年没)。60年代後半にカントリーの世界でソングライターとして注目を集め、その後1970年にソロ・デビュー。本作は「アイ・ゴー・クレイジー」のヒットから3年のブランクを経てリリースされた6作目で、当時日本でのデビュー作になった(その間にナイジェル・オルソン「涙のダンシング・シューズ」などをプロデュースしている)。オープニングの「パステル・メッセージ (Do Right)」を筆頭に、その誠実な歌声と、派手さは無いが忘れがたいメロディーの妙は、愛すべきAOR作品と言えるだろう。本作リリースの翌年に映画『なんとなく、クリスタル』が公開され、一躍デイヴィスに注目が集まった。

SICP 4881

| リマスタリング:2002年 解説:山崎稔久 |

クール・ナイト ポール・デイヴィス

Cool Night Paul Davis

1981



アリスタ移籍後、通算7作目。AORブームの真っ只中にリリースされ、メロウなイントロが印象的なタイトル曲は全米11位のヒットを記録。

1948年、南部のミシシッピ州生まれ。1970年にデビュー。本作はアリスタに移籍してリリースされた通算7作目。日本では「アイ・ゴー・クレイジー」が映画『なんとなく、クリスタル』(1981年公開/原作:田中康夫)の主題歌として使われてハイパル・ヒットするなど、AORブームの真っ只中にリリースされた。メロウなイントロが印象的なタイトル曲は全米11位(アダルト・コンテンポラリー2位)、さらに軽快なロックンロール・ナンバー「65ラヴ・アフェア」は全米6位まで上昇しキャリア最大のヒットになった。デイヴィスは2008年に、60歳で亡くなっている。

SICP 4882

| リマスタリング:2009年 解説:天辰保文 |

愛と微笑の世界 バリー・マニロウ

Even Now Barry Manilow

1978



2大ヒット「涙色の微笑」「コバカバーナ」を収録! アダルト・コンテンポラリーの貴公子が、日本でも大ブレイクを果たした記念すべき作品。

1943年、NY・ブルックリン出身。ピアニスト/作家/アレンジャーとして長い下積みでクラヴ・デイヴィスに見出され、1973年にデビュー。「悲しみのマンディ」(1974年・全米1位)など多くのヒットを放ち、これまでに8千万枚以上のセールスを記録している。5作目にあたる本作からは、「涙色の微笑(Can't Smile Without You)」が全米3位/アダルト・コンテンポラリー1位を獲得。続く「コバカバーナ」も全米トップテン入りし、日本でもディスコを中心に大ヒットした。全米アルバム3位。

SICP 4883

| リマスタリング:2006年 解説:大江田信 |

バリー バリー・マニロウ

Barry Barry Manilow

1980



80年代を迎え世界的なエンターテイナーとしての地位を確立。西海岸の売れっ子ミュージシャンを多く起用するなど、時代にあわせ変化しつつある時期の作品。

1943年生まれ、NY・ブルックリン出身。ピアニスト/作家/アレンジャーとして下積みを経て1973年にデビュー。「悲しみのマンディ」「歌の贈りもの」「涙色の微笑」「コバカバーナ」など多くのヒットを放ち、これまでに8千万枚以上のセールスを記録している。1980年にリリースされた本作からは、ジェラード・ケニーと共作した「悲しみをこえて」がヒット(アダルト・コンテンポラリーでは4位)。従来のNY組に加え、マイケル・ランドウ(g)、エイブラハム・ラボリエル(b)、エド・グリーン(ds)といった西海岸のミュージシャンを多数起用している。全米アルバム15位を記録。

SICP 4884

| リマスタリング:2016年 解説:大江田信 |

月影のロング・ナイト ゲイリー・ポートノイ

Gary Portnoy Gary Portnoy

1980



ソングライターとして評価の高いゲイリーが、アーティストとして残した唯一のアルバム。田中康夫『なんとなくクリスタル』で取り上げられた、AORファンの隠れた名盤。

アメリカの人気TVドラマ「CHEERS」のテーマ曲や、エア・サプライ「あなたのない朝」(1981年)などソングライターとして評価の高いゲイリーが、アーティストとして残した唯一のアルバム。田中康夫の『なんとなくクリスタル』で取り上げられたことがきっかけに日本でも注目を集めた。「カム・トゥ・ミー・トゥナイト」は、ニック・テカロがプロデュースしたブラジルのポップ・シンガー、ロベルト・カルソスのアルバムでもカヴァーされている。「驚り夜く(When The Night Ends)」はしっかりとしたイントロに導かれ聴くような歌い出しが印象的な美しいバラード。ヒット作ではないが、AORファンにとって忘れがたい名作だ。

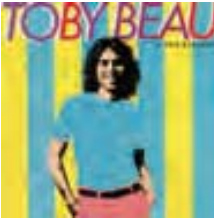
SICP 4885

| リマスタリング:2002年 解説:金澤寿和 |

愛のスケッチ トビー・ボー

If You Believe Toby Beau

1980



マニアから評価の高い隠れ名盤! ジョー・シャーマイなどビニー・ホーズ周辺のミュージシャンが多く参加し、AOR的なアプローチでイメージ・チェンジを図った3rdアルバム。

バルデ・シルヴァ(g)率いる5人組として1974年に結成。1978年に「マイ・エンジェル・ベイビー」が全米13位(アダルト・コンテンポラリー1位)のヒットを記録したが、グループは空中分解し、この3作目からバルデ・シルヴァのソロ・プロジェクトに。プロデューサーに、ゲイリー・バゲット&ユニオン・ギャップ、グレン・キャンベルなどを手がけたジェリー・フラーを起用し、AOR的なアプローチを試みた作品。レコーディングにはジョー・シャーマイ(b)やジョン・ホップス(key)、ビリー・ジョン・ウォーカー(g)などビニー・ホーズ周辺で活動するメンバーが参加。AORマニアから高く評価される隠れた名盤だ。

SICP 4886

| リマスタリング:2001年 解説:金澤寿和 |

リヴィング・オン・ミュージック ジェラード・ケニー

Living On Music Gerard Kenny

1980



バリー・マニロウの「悲しみをこえて」で知られるピアノ・マンの2ndアルバム、待望の世界初CD化!

1947年、NY生まれながら、英国で1979年にアルバム・デビューしたバリー・マン。バリー・マニロウが公演で遊覧した際に、ふとしたきっかけでジェラードの「悲しみをこえて(I Made It Through The Rain)」を耳にし、1980年にカバーして全米10位のヒットに。それを機にジェラードにも注目が集まり、日本でもアルバムが発売された。2ndアルバムにあたる本作は、コロラドのカリバー・ランチで英国のミュージシャンと共にレコーディング。随所で艶のあるギターを聴かせるのはプリンス&ザ・ニュー・パワー・ニュー・ウェイヴ 嵐風が吹き荒れる中、温かみのあるラヴソング「ファンタジー」が全英チャートにランキングされた。

SICP 4887

世界初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

ジョン・ファラー ジョン・ファラー

John Farrar John Farrar

1980



『フィジカル』、『ザナドウ』などオリヴィア・ニュートン・ジョンに多くのヒット作をもたらした名プロデューサー/ソングライター、唯一のソロ作。西海岸の一流ミュージシャンに交じり、トム・スノウも参加している。

1946年、オーストラリア出身。オリヴィア・ニュートン・ジョンのヒット曲「そよ風の誘惑(Have You Never Been Mellow)」「マジック」などのソングライター/プロデューサーとして知られるジョン・ファラー、唯一のアルバム。オリヴィアの次作「フィジカル」にも通じるポップ・センス溢れる作品で、オープニングを飾る「ときめき(Reckless)」は2008年にリリースされたオリヴィアのアルバムでも2人のデュエットでカヴァーしている。レコーディングは、エド・グリーン(ds)、マイケル・ボティック(key)、マイク・ボーク(b)、マイケル・ボッツ(ds)、そしてトム・スノウ(p)。さらにトム・スノウとは3曲を共作している。

SICP 4888

日本初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

ハングリー・ナイツ トム・スノウ

Hungry Nights Tom Snow

1982



多くのシンガーにヒット曲を提供した名ソングライターの3作目。ギタリストでもあるディーン・パークスをプロデューサーに迎え、西海岸の一流ミュージシャンが脇を固めている。

1947年生まれ。ピーター・セテラ、リンド・ロンシュタット、メリサ・マンチェスター、デニス・ウィリアムス、オリヴィア・ニュートン・ジョン他、多くのシンガーにヒット曲を提供した名ソングライター、トム・スノウがソロ・アーティストとしてアリスタに残した3rdアルバム。シンシア・ワイル、エリック・カズ、ディーン・ピッツフォード、ジョン・ファラーらと共作した珠玉のポップ・ソングを収録している。プロデューサーに人気ギタリストでもあるディーン・パークスを迎え、ジェフ・ボーク(b)、エド・グリーン(ds)、リー・スクラー(b)、エイブラハム・ラボリエル(b)らが参加している。

SICP 4889

日本初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

宇宙の騎士 TOTO

Toto Toto



ボズ・スキャッグスのレコーディングをきっかけに集結した若き腕利きミュージシャン6人で結成されたスーパー・バンド、衝撃的なデビュー作。ボズ・スキャッグスの「シルク・ディグリーズ」のレコーディングに参加したジェフ・ポーカロ(ds)、デヴィッド・ペイチ(key)、デヴィッド・ハングイト(b)ら幼馴染みでもあったロンゼルスの若き腕利きミュージシャンが、新たにステイヴ・ルカサー(g)、ステイヴ・ポーカロ(key)、ボビー・キンボール(vo)を加えて1977年に結成された。本作は高度なテクニク、幅広い音楽性、親しみやすいメロディーが凝縮されデビュー作にして、早くもTOTOのすべてが形になったAOR屈指の名盤。「ホールド・ザ・ライン」(全米5位)、「愛する君に」、「ジョージ・ボージー」などがヒット。アルバムは全米9位まで上昇した。

SICP 4890

リマスタリング:2004年 解説:中田利樹 |

1978

TOTO IV 聖なる剣 TOTO

IV Toto



世界的な人気と名声を決定づけた4作目。グラミー賞も獲得した記念碑的な傑作。全米No.1「アフリカ」をはじめ、「ロザーナ」、「ホールド・ユー・バック」など収録。

ステイヴ・ルカサー(g)、ジェフ・ポーカロ(ds)、デヴィッド・ペイチ(key)ら西海岸の凄腕ミュージシャンで結成されたTOTOは順調にヒットを重ね、この4作目で世界的な人気と評価を決定づけた。グラミー賞では最優秀アルバムを含む6部門を独占。初の全米No.1ヒット「アフリカ」、「ロザーナ」(5週連続2位)。「ホールド・ユー・バック」(同10位)などアルバム収録曲がすべてシングル・カット(A・B面)された。全米アルバム・チャート4位。本作リリース後、デヴィッド・ハングイト(b)、ボビー・キンボール(vo)が脱退し、オリジナル・メンバーでの最後のアルバムとなった。

SICP 4891

リマスタリング:2000年 解説:中田利樹 |

1982

ファーレンハイト TOTO

Fahrenheit Toto



スーパー・ミュージシャン集団の6作目。ヴォーカルがジョセフ・ウィリアムズに代わり、更なる高みに向かったAORの傑作。人気の「アイル・ビー・オーヴァー・ユー」を収録。

リード・ヴォーカルがファーギー・フレデリクセンから若きジョセフ・ウィリアムズに交代した6作目。レコーディングにはマイケル・マクドナルド(cho)、デヴィッド・サンボン(sax)、そしてジャズ界の巨匠マイルス・デイビス(tp)らがゲスト参加している。「アイル・ビー・オーヴァー・ユー」(全米11位/アダルト・コンテンポラリー1位)、「ウィズアウト・ユー・ラヴ」などロマンティックなバラードがヒットを記録し、TOTO中期の名作として人気の高いアルバム。米本国でのチャート・アクションは芳しくなかったが、日本ではオリコン・チャート第3位まで上がるヒットになった。

SICP 4892

リマスタリング:2005年 解説:金澤寿和 |

1986

ソー・ファイアード・アップ ル・ルー

So Fired Up Le Roux



TOTO二代目ヴォーカリスト、F・フレデリクセン参加! 抒情的なメロディーとドラマティックなアレンジに、パワフルなハイトーン・ヴォーカルが絡み合うロマンティック・ハードな逸品。

後にTOTOの二代目ヴォーカリストに抜擢されるファーギー・フレデリクセンが参加した6人組バンド。1978年にデビューし、本作は1983年発表の5枚目にしてラストアルバム。セールス面で成功は得られなかったが、躍動感に満ちたビートと抒情的なメロディー、パワフルなハイトーン・ヴォーカル、そしてメリハリ効いたドラマティックなアレンジは、ジャーニーやスティックスなどAOR寄りのロック・バンドを好むファンから高く評価された。この後フレデリクセンはTOTOの「アイソレーション」(1984年)に参加。リーダー格のボラードは宣教師の道を選び、バンドは解散した。

SICP 4893

リマスタリング:2005年 解説:中田利樹 |

1983

ブレッキング・アウェイ バランス

Balance Balance



TOTOに対する東からの回答! NYのスタジオ・ミュージシャンたちによる、メロディアスかつドラマティックなロックで注目を集めたトリオ。

ペビー・カストロ(vo)、ダグ・カッサロス(key)、ボブ・キューリック(g)のトリオ。3人ともNYのスタジオ・ミュージシャンであったことから、当時は「TOTOに対する東からの回答」と言われた。ハイトーンのヴォーカル、フォリナーやサバイバーにも通じるドラマチックなアレンジ、エッジ効いたギターが絡むハードでメロディアスなAORを展開。凄腕ドラマー、アンディ・ニューマーク(ds)と、ドゥービー・ブラザーズのウィリー・ウィークス(b)らがリズム隊を担当。「ブレッキング・アウェイ」(全米22位)、「フォーリング・イン・ラヴ」(全米58位)がシングル・カットされた。

SICP 4894

日本初CD化 | リマスタリング:2010年 解説:中田利樹 |

1981

オーヴァー・ザ・ライン グレグ・ギドリ

Over The Line Greg Guidry



哀愁のAORクラシック「ラストタイム・ラヴ」をはじめ日本人好みのメロディーが光る、ブルー・アイド・ソウルの傑作。

ミズーリ州セントルイス生まれ。ソングライターとして活躍、ロビー・デュプリ、クライマックス・ブルー・バンド、レックス・スミスなどに楽曲を提供。その才能をスティックスのプロデューサーだったジョン・ライアンに認められて、1982年に本作デビュー。レコーディングにはダン・ハフ(g)、TOTOのデヴィッド・ハングイト(b)、デヴィッド・サンボン(sax)ら一流ミュージシャンが参加した。期待されたセカンド・アルバムはレコード会社間の契約トラブルによりお蔵入りしてしまった。ギドリは2003年自宅の火災で亡くなった。

SICP 4895

リマスタリング:2005年 解説:片寄明人 |

1982

ロンリー・フリーウェイ ラリー・リー

Marooned Larry Lee



爽快に駆け抜けるサウンドと透明感溢れるヴォーカル、AORの気持ち良さが堪能できる唯一のソロ・アルバム。ジャケットは日本独自仕様で、人気イラストレーター・鈴木英人による。

70年代にカントリー・ロック・バンド、オザーク・マウンテン・デアデヴィルズに籍を置いていたラリー・リーのソロ・デビュー作にして、唯一のアルバム。デヴィッド・サンボン、TOTOのデヴィッド・ハングイト、ボブ・アピンス、レニー・カストロ、ビル・チャップリンなど一流のミュージシャンが参加。シングル「ロンリー・フリーウェイ」(Don't Talk)は爽快なリズムとメロディーに透明感のあるヴォーカルが乗ってAORのお手本のような一曲。90年代に映画『波の鼓だけ抱きしめて』で使用されリバイバル・ヒットした。ジャケットは日本独自の仕様で人気イラストレーター・鈴木英人によるもの。

SICP 4896

リマスタリング:2005年 解説:片寄明人 |

1982

女はドラマティック ジョン・ヴァレンティ

I Won't Change John Valenti



ソウルフルなヴォーカルが、キャッチーなメロディー・ラインに乗ったAORファンから人気の一枚。ビル・クオモ、ヴィニー・カリウタなど腕利きミュージシャンが脇を固めている。

1951年、シカゴ生まれ。ドラマーとして音楽活動を始め、70年代初めにバズルというグループを結成し、白人ながらモータウンから2枚のアルバムを発表。グループ解散後、1976年にソロとして再デビューを果たした。本作は1981年にRCAからリリースされた2ndアルバムで、ステイヴ・ウィー・ワンダーにも通じるソウルフルなヴォーカルとポップなサウンドがミックスされたAORの名盤。プロデューサーに、スモーキー・ロビンソンの「ビーイング・ウィズ・ユー」などを手がけたジョージ・トーチンを迎え、ビル・クオモ(key)やヴィニー・カリウタ(ds)など西海岸の腕利きミュージシャンが脇を固めている。

SICP 4897

リマスタリング:2001年 解説:片寄明人 |

1981

ナイトウォーカー ジノ・ヴァネリ

Nightwalker Gino Vannelli



全米6位まで上昇したバラード「リヴィング・インサイド・マイセルフ」を収録。強カリズム隊をバックに、プログレッシヴ・ロック的なアレンジでドラマチックに盛り上げる。

1952年生まれイタリア系カナダ人シンガー・ソングライター。大学で音楽を専攻した後、活動拠点をロサンゼルスに移し、1973年にA&Mレコードからデビュー。1978年に「アイ・ジャスト・ワナ・ストップ」が全米4位のヒットを記録している。アリストタ移籍第一弾の本作からは、情感豊かなバラード「リヴィング・インサイド・マイセルフ」が全米6位まで上昇。凄腕ミュージシャン、ヴィニー・カリウタ(ds)とニール・スチューベンハウス(b)の強カリズム隊に支えられ、プログレッシヴ・ロックにも通じる秀逸なアレンジが、ヴァネリの歌をドラマチックに盛り上げる。

SICP 4898

リマスタリング:2003年 解説:中田利樹 |

1981

マジック ディック・セント・ニクラウス

Magic Dick St. Nicklaus



1980年に異例の「関西限定」発売が実現した日本独自のAOR名盤。ソウルフルなヴォーカルと哀愁漂うメロディーが絡み合うタイトル曲が大ヒット!

60年代にはキングスマンというバンドにドラマーとして在籍し、70年代はソングライターとして活動。本作は1979年に大阪の輸入レコード店から人気に火が付き、1980年に異例の「関西限定」発売が実現した(その後全国発売)。当時人気を集めていたボズ・スキャッグスやポビー・コールウェルと共にAORの旗手と呼ばれ、日本独自のAOR名盤として定着している。ソウルフルなヴォーカルと哀愁漂うメロディーが絡み合うタイトル曲はラジオを中心に流行し、チャート上位にランキングされるヒットになった。アーニー・ワッツ(sax)、リー・スクラー(b)が参加。

SICP 4899

リマスタリング:2010年 解説:東ひさゆき |

1979

ドリーム・マスター **ビル・ヒューズ**Dream Master **Bill Hughes**

1979

1980年に関西限定発売の後、話題となり全国発売された日本独自のAOR名盤。AORの詩人と呼ぶに相応しい心温まる10篇のラブソングが並ぶ。

関西の輸入盤レコード店で火が付き、1980年に関西限定で発売して話題を呼んだAORの詩人、ビル・ヒューズ。大学時代に組んだラザルスというバンドで1971年にベアズヴィル・レコードからデビューするが、アルバム2枚を残し解散。その後ソロ・シンガーとしてCBSカナダと契約し本作をリファインした。このソロ・デビュー作には、ラス・カンケル(ds)、ジェイ・グレイドン(g)、アーニー・ワッツ(sax)、ジェフ・ポーカロ(ds)、ウィルトン・フェルダー(b)らが参加。心温まる10篇のラブソングは、日本らしいAORといえる。1991年に「とどかぬ想い」がTVドラマのテーマ曲になりヒットしている。

SICP 4900

リマスタリング:2001年 解説:天辰保文 |

涙は今夜だけ **ビル・ラバウンティ**This Night Won't Last Forever **Bill LaBounty**

1978

永遠のAOR名曲「涙は今夜だけ」を収録! いふし銀ソングライターのソロ2作目に、リー・リトナー、ジェフ・ポーカロら凄腕ミュージシャンらが多数参加。

これまでに数百曲を書き、ソングライターとしても評価の高いビル・ラバウンティ。AORファンの間では“永遠の名曲”との呼び声も高い「涙は今夜だけ(This Night Won't Last Forever)」を収録したソロ2作目。同曲は翌年マイケル・ジョンソンにカバーされ、全米19位(アダルト・コンテンポラリー5位)まで上昇した。後に日本では1990年にTVドラマの挿入歌としてリバイバル・ヒットして幅広く知られるようになった。リー・リトナー(g)、レイパーカーJr.(g)、ティーン・パークス(g)、リースクラー(b)、ジェフ・ポーカロ(ds)などが参加して、ロサンゼルスとナッシュビルで録音されている。

SICP 4901

リマスタリング:2014年 解説:大江田信 |

ビル・ラバウンティ **ビル・ラバウンティ**Bill LaBounty **Bill LaBounty**

1982

日本デビュー作になった4thアルバム。名匠ラス・タイトルマンのプロデュースで、東西のスーパー・ミュージシャンが多数参加。人気の高い「リヴィン・イット・アップ」を収録。

日本でのデビュー作となった4作目。ランディ・ニューマン、リッキー・リー・ジョーンズらを手がける名匠、ラス・タイトルマンのプロデュースで、ステイヴ・ルカサー(g)、ティーン・パークス(g)、ジェフ・ポーカロ(ds)、ステイヴ・ガッド(ds)、チャック・レイニー(b)、ウィリー・ウィークス(b)、グレッグ・フィリプソーン(key)、デヴィッド・サンボーン(sax)など多くの凄腕ミュージシャンが参加している。パリー・マン&シンシア・ワイルと共作したオープニング曲「リヴィン・イット・アップ」は後に多くのカヴァー・ソングが生まれた。

SICP 4902

リマスタリング:2014年 解説:金澤寿和 |

エンジェル・ハート **ジミー・ウェブ**Angel Heart **Jimmy Webb**

1982

パート・バカラック、ブライアン・ウィルソンとアメリカが誇るソングライターと並び称される偉大なシンガー・ソングライターが80年代に発表した唯一のAORアルバム。

1946年生まれ。パート・バカラック、ブライアン・ウィルソンと並ぶアメリカが誇る偉大なソングライター、ジミー・ウェブが80年代にリリースした唯一のオリジナル・アルバム。レコーディングはジェフ・ポーカロ(ds)、ステイヴ・ルカサー(g)のTOTOのメンバーを中心に、デヴィッド・フォスター、マイケル・マクドナルド、ケニー・ロギンスなど西海岸のトップミュージシャンが参加、AORブーム真只中の日本でもタイトル曲がヒットした。前年にアート・ガーファンクルに提供した「シザースカット」、「美しき若葉の頃(In Cars)」もセルフ・カヴァーしている。

SICP 4903

リマスタリング:2010年 解説:金澤寿和 |

愛への旅立ち **アート・ガーファンクル**Breakaway **Art Garfunkel**

1975

プロデューサーに大御所リチャード・ベリーを迎えた2ndソロ作。S・ワルナー、A・C・ジョビン、ピーチ・ボーイズなどの佳曲をとりあげたAORヴォーカルの傑作。

1941年ニューヨーク生まれ。1963~70年までポール・サイモンとのデュオ、サイモン&ガーファンクルで活躍。ソロ第2作となるこのアルバムはグレム・ナッシュ、デヴィッド・クロスビー、ブルース・ジョンストンらのミュージシャン仲間が参加。当時飛ぶ鳥を落とす勢いのリチャード・ベリーのプロデュースでA・C・ジョビンやピーチ・ボーイズからR&Bクラシックまで幅の広い選曲で自らの音楽的成長を綴っている。「瞳は君ゆえに」(全米18位)、再結成かと思われたポール・サイモンのデュエット「マイ・リトル・タウン」(全米9位)など収録。アルバムは全米7位まで上昇した。

SICP 4904

リマスタリング:2012年 解説:大江田信 |

ウォーターマーク **アート・ガーファンクル**Watermark **Art Garfunkel**

1978

ヴォーカリストとしての真骨頂をみせた3rdアルバム。敬愛するソングライター、ジミー・ウェブの作品で固め、透明感あるその音楽性を余すところなく表現した彼の最高傑作。

自らがプロデューサーになり、好きなジミー・ウェブの作品でまとめたソロ3作目。シングル用に制作された「ワンドラブル・ワールド」のみサム・ワグの曲である。日本では発売当初よりも今のほうが評価の高いアルバム。ウェブの佳曲の数々、淡いブルーを基調とした海で微笑むガーファンクルのアルバムが相まった人気の高い盤である。ステイヴ・ガッドやリチャード・ティーン、ポール・デスモンドなどジャズ系のミュージシャンや、御大ジミー・ウェブ、ステイヴ・ビショップ、マッスル・ショールズ・リズム・セクションなど豪華なバック陣が脇を固めている。

SICP 4905

リマスタリング:2012年 解説:大江田信 |

光の季節〜イン・コンサート(コンプリート版) **ローラ・ニーロ**Season Of Lights **Laura Nyro**

1977

名うてのミュージシャンによる躍動感あふれる演奏が、独特のニーロ節を盛りたてる。オリジナルは編集されていたが、後に日本先行でコンプリート版を発売。

1947年、NY・ブロンクス生まれ。60年代後半から、シンガー・ソングライターとして都会に生きる女性の光と影を鋭い感性で綴り、1997年に亡くなった後も、多くのミュージシャンたちに大きな影響を与えている。このアルバムは1976年のツアーの様子を中心にまとめられたライブ盤。1977年の発売直前は枚に編集され発売されたが、その後コンプリート版として再発売された。マイク・マイネリ(vib)、ジョン・トロベイ(g)、アンディ・ニューマーク(ds)ら名うてのミュージシャンを中心にしたバンドによる躍動感あふれる演奏が、独特のニーロ節を盛りたてる。ジャケットは日本人画家の谷内六郎による。

SICP 4906

リマスタリング:2008年 解説:長門芳郎 |

ドクター・イズ・イン **ベン・シドラ**The Doctors Is In **Ben Sidran**

1977

“Dr. ジャズ”の異名をとるピアニスト/シンガー・ソングライター、ベン・シドラの6作目。軽妙洒落な「世間知らずの歌」は、ジャズ〜ポップスの両シーンから人気の高い一曲。

1943年生まれ。シカゴ出身。愛称は“Dr. ジャズ”。ピアニスト/シンガー/ソングライターとして、ステイヴ・ミラー・バンドに参加した後、1971年にソロに転じる。本作はジャズとAORの両シーンから人気の6作目。レコーディングには、フィル・アップチャーチ(g)、ラリー・カールトン(g)、ジョン・ガールン(ds)、トニー・ウィリアムス(ds)、ブルー・ミッチェル(tp)らが参加。軽妙洒落な「世間知らずの歌(Song For A Sucker Like You)」は、後にモントルー・ジャズ・フェスでのライブ盤にも収録された人気曲。日本では90年代にクレモンティーヌのプロデューサーとしても人気を得た。

SICP 4907

リマスタリング:2008年 解説:天辰保文 |

キャッスル・イン・ジ・エア **フェリックス・キャヴァリエ**Castles In The Air **Felix Cavaliere**

1979

フェリックスのソウル嗜好が活かされ、ヴォーカルは渾剣として生気がみなぎる。東海岸のミュージシャンが大挙して参加したソロ3作目。

「グルーヴィン」などのヒットで知られるブルー・アイト・ソウルの最高峰、ラスカルのヴォーカル/オルガン担当。ラスカルズ活動休止を受けソロに転じ、コンサートにアルバムを発表している。ソロ3作目となる本作はフェリックスのソウル嗜好が活かされ、ステイヴ・カーン(g)、ウィル・リー(b)、ステイヴ・ジョーダン(ds)、ランディ・ブレッカー(tp)ら東海岸のミュージシャンが大挙して参加。さらにルーサー・ヴァン・ドレイクやデヴィッド・ラズリーもコーラスで参加し、ヴォーカルは渾剣として生気がみなぎっている。ラスカルズ時代の「自由への賛歌」を再録音している。

SICP 4908

リマスタリング:2005年 解説:波多野愛明 |

ラヴァーズ・メロディー **ロバート・クラフト**Retro Active **Robert Kraft**

1982

スウィング×ポップ×ハイブリッドなメロディーでマニアから注目を集めた才人、ロバート・クラフト。人気ギタリスト、ラリー・カールトンがプロデューサーに迎えた3rdアルバム。

1955年、ニュージャージー州生まれ。4歳でピアノを始める。ハーヴァード大学を卒業した後、1979年にデビュー。自らの音楽を「メロト・ポップ」と称し、スウィングなジャズの要素を取り込んだハイブリッドなサウンドは、日本でもマニア筋から熱い視線を集めた。3作目にあたる本作は名ギタリスト、ラリー・カールトンがプロデューサーに迎え、洗練されたポップなサウンドが満載。カールトンはもちろん、ジェフ・ポーカロ(ds)やエイブラハム・ラポリエル(b)、マイケル・オマーティアン(p)、ペイジズ(cho)らが参加。デュエットでマンハッタン・トランスファアのジャニス・シゲルの名も。

SICP 4909

リマスタリング:2001年 解説:山崎稔久 |

ファースト・ペイジズ ペイジズ

Pages Pages

1978



ジャズ/フュージョンの要素を巧みに取り入れたスムーズな楽曲、控えめながら細部にわたって緻密な演奏、クリアなハーモニーは、これぞAOR的なデビュー作。

後に「キリエ」「プロウクン・ウィングス」のヒットで全米チャートを制覇した「Mr. ミスター」として知られることになるリチャード・ペイジ(vo/b)とスティーヴ・ジョージ(key)を中心にとした5人組。彼らのデビュー作にあたる本作は、ジャズ/フュージョンの要素を巧みに取り入れたスムーズな楽曲、控えめながら細部にわたって緻密な演奏、クリアなハーモニーは、これぞAORと称される出来映え。プロデューサーに元BS&Tのポビー・コロンビーを迎え、レコーディングにはマイケル・ブレッカー(sax)、デイヴ・グルーシン(key)、ヴィクター・フェルドマン(perc)らが参加している。

SICP 4910

リマスタリング:2000年 解説:金澤寿和 |

フューチャー・ストリート ペイジズ

Future Street Pages

1979



洗練されたAORサウンドで評価を得たペイジズの2ndアルバム。ロック寄りのフレイヴァーを感じさせる本作には、多くの実力派ミュージシャンが参加し華を添える。

80年代にMr. ミスターとして「キリエ」「プロウクン・ウィングス」のNo.1ヒットを放ったリチャード・ペイジ(vo/b)とスティーヴ・ジョージ(key/vo)を中心としたグループ、ペイジズ。デビュー作に比べ、ロック寄りのフレイヴァーを感じさせる本作には、多くのフュージョン系の名盤に名を連ねるチャールズ・イカルス・ジョンソン(g)が新たに参加している。マイケル・ブレッカーの華麗なサクソも印象的な「フーズ・ライト、フーズ・ロング」はケニー・ロギンスとの共作曲で、多くのカヴァー・ヴァージョンを生んでいる。ジェリー・ヘイ率いるシー・ウィンド・ホーンズがレコーディングに参加。

SICP 4911

リマスタリング:2000年 解説:中田利樹 |

アイ・ウェア・ザ・フェイス Mr.ミスター

I Wear The Face Mr. Mister

1984



ペイジズを解散したリチャード・ペイジ&スティーヴ・ジョージが心機一転、時代の流れに合わせたポップ・ロック路線で勝負に出た新バンドのファースト・アルバム。オリジナル・アートワークで再発。

ロサンゼルスをベースに活動していた敬輿ミュージシャン・バンドで活動していたリチャード・ペイジ(vo/b)とスティーヴ・ジョージ(key/sax)が、新たにスティーヴ・ファリス(g)とバット・マステロット(ds)を加えて結成した4人組。RCAと契約し、曲調もペイジズの高感度なジャズ・AORから、ポップ・ロック路線に変わり心機一転。「ハンターズ・オブ・ザ・ナイト」がシングル・カットされ、全米57位にランクイン。次作では「キリエ」と「プロウクン・ウィングス」が全米No.1に輝き、大ブレイクを果たす。リリース当時のオリジナル・ジャケットのアートワークで再発。

SICP 4912

リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

ウェルカム・トゥ・ザ・リアル・ワールド Mr.ミスター

Welcome To The Real World Mr. Mister

1985



緻密に作りこまれたサウンド×ドラマティックなメロディーで時代を席巻した大ヒット2ndアルバム。「プロウクン・ウィングス」「キリエ」が連続全米No.1を獲得!

ロサンゼルスをベースに活動していた敬輿スタジオ・ミュージシャンたちによるバンド、ペイジズのリチャード・ペイジ(vo/b)とスティーヴ・ジョージ(key/sax)を中心に結成された4人組。デビュー作では満足する結果を残すことができなかったが、このセカンド・アルバムからは「プロウクン・ウィングス」と「キリエ」の2曲が連続して全米ナンバーワンとなる大ヒットを記録。アルバム自体も全米1位を獲得している。緻密に作りこまれたサウンドとドラマティックなメロディーの妙は、AORファンの間でも高く評価されている。バンドは1987年に3作目をリリースして活動を停止した。

SICP 4913

リマスタリング:2006年 解説:東ひさゆき |

ミスター・ラッキー フールズ・ゴールド

Mr. Lucky Fools Gold

1977



80年代を代表するソングライターとして名高いトム・クリーの伝説のグループ! 名匠キース・オルセンのプロデュースで、録音にはデヴィッド・フォスター、ジェフ・ポーカロ、デヴィッド・ベイチらが参加。

ダン・フォーゲルバーグのバックを務めていたトム・クリー(vo)とデニー・ヘンソン(vo)を中心にしたグループ。フリートウッド・マックらを手がけていたキース・オルセンをプロデューサーに迎えたこの2作目で、従来のカントリー・ロックからAOR寄りの洗練されたサウンドに移行。グループはクリーとヘンソンの2人体制になり、レコーディングはデヴィッド・フォスター(key)やジェフ・ポーカロ(ds)、デヴィッド・ベイチ(key)らTOTO一派が参加。1978年に解散した後、トム・クリーはビルリー・スタインバーグとアイ・テンを結成。ソングライターとしても「ライク・ア・ヴァージン」「トゥルー・カラース」などヒット曲を量産していく。

SICP 4914

リマスタリング:2001年 解説:除川哲朗 |

スパイズ・オブ・ライフ プレイヤー

Spies Of Life Player

1982



美しいメロディーと爽快なギター・サウンドは、これぞAOR。「ペイビー・カム・バック」の全米No.1ヒットで知られるバンドのRCA移籍第一弾。1978年の全米No.1ヒット「ペイビー・カム・バック」で知られるバンド、プレイヤー。英国人のピーター・ベケット(vo)とジョン・フリーセン(ds)を中心に、新たなメンバーを迎えたRCA移籍第一弾(通算4作目)。フォー・トップスやコモドアーズからスターシップまで手掛けるデニス・ランバートをプロデューサーに迎え、レコーディングにはビートル・メーカーのトム・クリー(vo)や、エアプレイで知られるトミー・ファンダーバーグ(vo)らが参加。シングル「イフ・ルックス・グッド・キル」は全米48位まで上昇した。美しいメロディーと爽快なギター・サウンドの妙は、これぞAORだ!

SICP 4915

リマスタリング:2000年 解説:中田利樹 |

テイキング・ア・コールド・ルック アイ・テン

Taking A Cold Look I-Ten

1983



キース・オルセンとスティーヴ・ルカサーが共同プロデューサー! 80年代を代表するソングライター・チームの伝説的なアルバム。ハート「アローン」のオリジナル版を収録。

「ライク・ア・ヴァージン/マドンナ」「トゥルー・カラース/シンディ・ローパー」「胸いっぱい/ハンクス」など多くのヒット曲を生んだソングライター・チームトム・クリー(元・フルズ・ゴールド)&ビルリー・スタインバーグによるユニット、唯一のアルバム。フリートウッド・マックやオリナーなどを手がけるキース・オルセンとTOTOのステイヴ・ルカサーが共同プロデュース。ボーカリストも参加したメロディアスかつハードなサウンドはTOTOファン必認。後にハートが歌い全米No.1を獲得した「アローン」のオリジナル・ヴァージョンを収録している。

SICP 4916

リマスタリング:2013年 解説:金澤寿和 |

ジーバップ! サンタナ

Zebop! Santana

1981



ウッドストックなど数々の歴史的名演を残したカルロス・サンタナがCBS時代後期に残した名盤。ラテン色を強く打ち出しメロディアスに新境地が覗える。

1947年生まれ、60年代から自身のバンドを率いて、ウッドストックをはじめ多くの歴史的名演を残し、現在も活躍中。本作はハービー・ハンコックとの「スイング・オブ・デライト」の後にバンドに戻りポップ・フレイヴァーに遊べるアルバム作りに取り組んだ。持ち味のラテン色を濃く打ち出しCBS後期の作品のなかでも傑作といわれる。ラス・バラードのカヴァー「ウイニング」(全米17位)、「センシティブ・ウーマン」(「チェンジス」)、「サーチン」など乗りの良いサウンドに遊れたAOR的境地だ。全米アルバム・チャート9位まで上昇。

SICP 4917

リマスタリング:2010年 解説:東ひさゆき |

シャンゴ サンタナ

Shangó Santana

1982



80年代サンタナの代表的なヒット曲「ホールド・オン」収録! バンド・アンサンブルの充実度が高まり、新しいサンタナ・ワールドを予感させた意欲作。グレッグ・ローリーが久しぶりにゲスト参加。

本作はオリジナル・サンタナ・バンドに在籍していたグレッグ・ローリーと当時イーグルスのプロデューサーだったビル・シムズとの共同プロデュースでシャープなポップ・ロック・サウンドを展開している。リード・ヴォーカルのアレックス・リガートウッドが主に曲作りを担当。それまでのサンタナにはなかった新しい感覚が挿入された。「ホールド・オン」(全米15位)がサーフ・テイストで大反響を呼び、新たなファンを獲得した。アルバム・タイトルの「シャンゴ」とはメキシコ語で「狼」を意味する。

SICP 4918

リマスタリング:2010年 解説:東ひさゆき |

レス・デュエデック レス・デュエデック

Les Dudek Les Dudek

1976



オールマン・ブラザーズにも認められた南部の凄腕ギタリストのソロ・デビュー作。ボズ・スキャッグスのプロデュースで、TOTOのジェフ・ポーカロ、デヴィッド・ベイチが全面参加!

1952年、ロードアイランド生まれ、フロリダ育ち。地元では名の知れたギタリストとなり、オールマン・ブラザーズ・バンドの「ブラザーズ&シスターズ」に参加。その後ボズ・スキャッグスやスティーヴ・ミラー・バンドと共に活動し、1976年に本作でデビュー。プロデューサーにボズ・スキャッグスを迎えたデビュー作で、全曲デュエデック自身がリード・ヴォーカルを務めている。ボズと線の深いTOTOのジェフ・ポーカロ(ds)とデヴィッド・ベイチ(key)が全面的に参加し、他にもデヴィッド・ハンゲイト(b)、チャック・レイニー(b)、トム・スコット(sax)、デヴィッド・フォスター(key)らが名を連ねる。

SICP 4919

リマスタリング:2007年 解説:金澤寿和 |

セイ・ノー・モア レス・デューテック

Say No More Les Dudek



サザン・ロックの凄腕ギタリストが、TOTOのジェフ・ポーカロ、デヴィッド・ベイチやチャック・レイニーらとダイナミックな演奏を聴かせてくれる。
1952年、ロードアイランド生まれ・フロリダ育ち。20歳のときにオールマン・ブラザーズバンドの『ブラザーズ&シスターズ』のレコーディングにも参加。その後ボズ・スクヤーズやステイヴ・ミラー・バンドと共に活動し、1976年にボズのプロデューサーでソロ・デビューを果たした。この2作目ではプロデューサーがドラーズやデヴィ・メイソンらを手がけたブルース・ポトニックに交代。前作に続きTOTOのジェフ・ポーカロ(ds)、デヴィッド・ベイチ(key)や、チャック・レイニー(b)、ジェラルド・ジョンソン(b)、トニー・ウィリアムス(ds)らが参加。

SICP 4920

日本初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

1977

ブラック&ホワイト マイク・フィニガン

Black & White Mike Finnigan



ジミヘンやデヴィ・メイソンとの白熱したセッションで知られるキーボード奏者の洗練されたAOR作。後にバンドを組むレス・デューテック、ジム・クリューガーも参加。

60年代末からジミ・ヘンドリックスらとのセッションで頭角を現し、人気ギタリスト、デヴィ・メイソンのバンドのキーボード奏者として活躍したマイク・フィニガン。デヴィ・メイソンの伝説的な来日公演にも同行し、名作『ラヴ〜情念』に参加している。スワンプの名盤といわれるソロ・デビュー作に続く本作では、時代の流れに合わせ洗練されたAORにシフト。親分のデヴィ・メイソンはもちろん、後にバンドを組むレス・デューテック(g)とジム・クリューガー(g)と共に、ジェフ・ポーカロ(ds)やマックス・クロンケル(key)らAOR系ミュージシャンも多数参加している。

SICP 4921

リマスタリング:2013年 解説:金澤寿和 |

1978

スタンド・バイ・ミー モーリス・ホワイト

Maurice White Maurice White



2016年2月に亡くなったEW&Fのリーダー、モーリス・ホワイトの唯一のソロ・アルバム。「アイ・ニード・ユー」「スタンド・バイ・ミー」の2大ヒットを含むAOR的な作品。

2016年2月に亡くなったEW&Fのリーダー、モーリス・ホワイト(1941年生まれ)はシカゴでジャズ・ドラマーとして音楽活動を開始。その後L.A.に拠点を移し、1971年にEW&Fでデビューし数々のヒット・アルバムを放つ。様々なジャンルを巧みにミックスした華やかなファンク〜ディスコサウンドで圧倒的な人気を獲得した。本作はグループ活動休止中の1985年に発表した唯一のソロ・アルバム。レコーディングにはジョン・ロビンソン(ds)、ポール・ジャクソン・Jr.(g)、エイブラハム・ラボリエル(b)、ロビー・ブキャン(key)などが参加している。CMで使用された「アイ・ニード・ユー」、ペン・キングのカヴァー「スタンド・バイ・ミー」がヒットした。

SICP 4922

リマスタリング:2001年 解説:林剛 |

1985

ワーキング・オン・ユー ラモント・ドジャー

Working On You Lamont Dozier



モータウンで幾多のヒット曲を書いたソングライターのソロ・アルバム。西海岸のソウル〜ジャズ系ミュージシャンを起用して洗練された80年代スタイルに昇華したR&Bファンからも人気の高い作品。

1941年生まれ、デトロイト出身。モータウンを中心に幾多のヒット曲をテンデーションズやジュプリムスに提供したソングライター・チーム、ホーランド&ドジャー=ホーランドの一員として有名。1973年にチームを解消し、ソロ・アーティストとしてデビューした。本作はコロムビアに残した唯一の作品で、全曲自身のソングライティングとプロデュースを行い、西海岸のソウル/ジャズ系のミュージシャンでバックを固めた力作。お得意のノーザン・ソウル風の躍動的なビートを洗練された80年代スタイルに昇華した。オープニングの「クール・ミー・アウト」からご機嫌なナンバーが続く、女人好みの一枚。

SICP 4923

リマスタリング:2001年 解説:林剛 |

1981

あなたしか見えない メリサ・マンチェスター

Don't Cry Out Loud Melissa Manchester



マーヴィン・ゲイの「アイ・ウオント・ユー」で知られるリオン・ウェアをプロデューサーに迎え、R&Bファンからも人気の一枚。代表曲「あなたしか見えない」(全米10位)を収録。

1951年、ニューヨーク生まれ。ティーン頃からCMソングなどを歌っていたが、大学時代ポール・サイモンのもとで作曲を学ぶ。1973年にデビュー。1978年にリリースされた本作は、「アイ・ウオント・ユー/マーヴィン・ゲイ」で知られるリオン・ウェアをプロデューサーに迎え、R&B/ソウル・ファンからも人気の一枚。特に日本で90年代のフリーソウル/レ・ア・グループ・ムーヴメントの中で再評価された。デヴィッド・T・ウォーカー(g)、チャック・レイニー(b)、ジェームス・ギャドソン(ds)などソウル系ミュージシャンが参加。代表曲「あなたしか見えない」(全米10位)を収録。

SICP 4924

リマスタリング:2011年 解説:除川哲朗 |

1978

ラヴ・コンカーズ・オール マイケル・ワイコフ

Love Conquers All Michael Wycoff



リオン・ウェアが提供した「ルッキング・アップ・トゥ・ユー」は後に「Hey Mr. DJ」でサンプリングされ大ヒット! アル・マッケイ、デヴィッド・T・ウォーカーらが参加。

1956年生まれ。まずセッション・ピアニストとして頭角を現し、ステイヴィー・ワンダーの傑作「キー・オブ・ライフ」(1976年)にも参加。1980年にRCAからソロ・デビューし、歌/演奏/ソングライティング/アレンジとマルチな才能を発揮し、3枚のアルバムを残す。2ndアルバムにあたる本作には、アル・マッケイ(g)、デヴィッド・T・ウォーカー(g)、ジェームス・ギャドソン(ds)、ネイザン・ワッツ(b)らが参加。リオン・ウェアが提供した「ルッキング・アップ・トゥ・ユー」は、90年代に「Hey Mr. DJ/ジャネイ」で大膽にサンプリングされリバイバル・ヒットした。

SICP 4925

リマスタリング:2008年 解説:林剛 |

1982

KIMIKO 笠井紀美子

Kimiko Kimiko Kasai



ジャズの枠を超え、ジェイ・グレイドンやリチャード・ベイジなどAORシーンのキーマンを起用したAOR作品。ミニ・リパートンで知られるリチャード・ルドルフがプロデュース。

1945年、京都生まれ。60年代から本格的に活動を始め、70年代は海外アーティストと次々にアルバムを制作。その後L.A.に拠点を移し、ハービー・ハンコック(p)との共演盤『バタフライ』(1979年)など、ジャズ/フュージョン/R&Bなど幅広いジャンルで作品を残している。本作は80年代に入ってから最初のアルバムで、プロデューサーにミニ・リパートン作品で知られるリチャード・ルドルフを招き、ジェイ・グレイドン、リチャード・ベイジ、マーク・ジョーダンというAORキーマンを配したアーバン・コンテンポラリーな作品。「アイム・ソー・マッチ・イン・ラヴ」はステイヴィー・ワンダー作。

SICP 4926

リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

1982

ラヴ・トーク 笠井紀美子

Love Talk Kimiko Kasai



リチャード・ルドルフのプロデュースで、リー・リトナー、ネイザン・イースト、ハーヴィー・メイソンら西海岸の超人気ミュージシャンが集結。

1945年、京都生まれ。60年代から音楽活動を始め、70年代には海外アーティストと次々にアルバムを制作。その後ロサンゼルスに拠点を移し、ハービー・ハンコック(p)との共演盤『バタフライ』など近年ますます評価を高めている。このアルバムは前作に続いてリチャード・ルドルフのプロデュースでロサンゼルス録音。リー・リトナー(g)、ネイザン・イースト(b)、ハーヴィー・メイソン(ds)、ジョン・ロビンソン(ds)らが参加。租モノ・ブギー/ディスコとしても人気の高いタイトル曲や、ロバート・フラックのオリジナルとは趣を変えスウィングな「やさしく歌って」など待望のリリース。

SICP 4927

リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

1984

ブレイクウォーター ブレイクウォーター

Breakwater Breakwater



フィラデルフィア出身の腕利きヴォーカル&インスト・グループ。フリー・ソウルの定番「ワーク・イット・アウト」を筆頭に、瑞々しくこみあげてくるヤング・ソウルの名盤!

後にチェンジヤ&ハイ・グロスに参加したケイ・ウィリアムスJr.を中心にしたフィラデルフィア出身の8人組。直球のファンクからAORテイストのインスト・ナンバーまでこなす確かな演奏力に直打ちされたヴォーカル&インストフルメタル・グループ。このデビュー作にはラテン・フレイヴァーに彩られたフリー・ソウルの人気曲「ワーク・イット・アウト」を筆頭に、「ユー・ノウ・アイ・ラヴ・ユー」「ニュー・リミット」のような小粋で洗練された好楽曲まで、瑞々しくこみあげてくるヤング・ソウルの名盤。グループは1980年に2作目『スプラッシュダウン』をリリースして消滅している。

SICP 4928

リマスタリング:2008年 解説:林剛 |

1978

ナイトフライトI ナイトフライト

Niteflyte Niteflyte



キャッチーなメロディーと巧みな演奏によるグループが心地よい名曲「イフ・ユー・ウォント・イット」収録! マイアミらしい明るくリラックスした雰囲気や堪能できる人気作。

スタジオ・ワークで名を上げたギタリスト、サンディ・トレノ(キューバ出身)と、マイアミで活動していたヴォーカル、ハワード・ジョンソンの2人組。リリース当時も、トレノの傑出したメロディ・メーカーとしての才能と、爽やかなサウンド・プロダクションが高く評価され、後にAORファンから支持を集めた。穏やかなカッティング・ギターとトレノ&ジョンソンのヴォーカルが絡み合う傑作「イフ・ユー・ウォント・イット」を筆頭に、キャッチーなメロディと巧みな演奏が心地よく融合されている。デヴィッド・サンボーン(sax)、ステイヴ・フェローン(ds)らが参加。

SICP 4929

リマスタリング:2008年 解説:金澤寿和 |

1979

ナイトフライトII ナイトフライト

Niteflyte II Niteflyte

1981



一度聴いたら忘れられないキャッチーな名曲「ユー・アー」から始まり、全編心地よいメロディー、小粋なアレンジ、巧みな演奏が一体となったグルーヴィーな傑作。

キューバ出身のギタリスト、サンディ・トレノと、マイアミで活動していたヴォーカル、ハワード・ジョンソンの2人組。このセカンド・アルバムは、“Hey, Hey, Hey, You!”のフレーズでお馴染み「ユー・アー」から始まり、涙腺を刺激すること必至のバラード「ユー・ア・プレイキング・マイ・ハート」、ロマンティックで憂いを秘めたギター・インスト「アリアシアズ・ソング」など、素晴らしいメロディーと小粋なアレンジ、巧みな演奏が一体となったAORの傑作といえる出来栄。ナイトフライト解散後、ハワード・ジョンソンはA&Mからソロとして再デビューを果たした。

SICP 4930

リマスタリング:2008年 解説:金澤寿和 |

スペシャル・シングス ポインター・シスターズ

Special Things Pointer Sisters

1980



パート・パカラック、ビル・チャンプリン等による幅広い楽曲が用意された姉妹グループの7作目。トム・スノウ&シンシア・ワイルによる「肉気なボーイ」が全米3位を記録。

カリフォルニア州オークランド出身、ポインター姉妹の7作目。本作はレーベル・オーナーで重鎮プロデューサーのリチャード・ベリー指揮のもと、パート・パカラック&キャロル・ベイヤー・セイガー、ビル・チャンプリン等による幅広い楽曲が用意された。レコーディングにはネイザン・ワッツ(b)、ポール・ジャクソンJr.(g)、クレグ・フィリディングス(key)、ジェームス・ギャドソン(ds)、リッキー・ローソン(ds)らが参加。トム・スノウとシンシア・ワイルのペンによる「肉気なボーイ(He's So Shy)」がシングル・カットされ、全米3位の大ヒットになった。

SICP 4931

日本初CD化 | リマスタリング:2010年 解説:安審明定 |

ブラック&ホワイト ポインター・シスターズ

Black & White Pointer Sisters

1981



グループ最大級のヒット「スロー・ハンド」(全米2位)を収録! タイトル通り、デヴィッド・フォスターやデヴィッド・ラズリー等AORシーンのキーマンが楽曲を提供。

カリフォルニア州オークランド出身、ポインター姉妹によるヴォーカル・グループ。「イエス・ウィ・キャン・キャン」(1973年)、「ファイヤー」(1979年)、「ジャンプ」(1984年)など多くのヒット曲を持つ。本作ではタイトル通り彼女たちの幅広い音楽性が示され、デヴィッド・フォスターやデヴィッド・ラズリー、ラス・バラード等AORシーンのキーマンが楽曲を提供。レコーディングにはクレグ・フィリディングス(key)やジョン・ロビンソン(ds)、マイク・カカロ(b)らが参加している。グループ最大級のヒット「スロー・ハンド」(全米2位)を収録。全米アルバム12位。

SICP 4932

日本初CD化 | リマスタリング:2013年 解説:安審明定 |

クローズ・イナフ サラ・ダッシュ

Close Enough Sarah Dash

1981



「レディー・マーマレイド」で知られる女性グループ、ラベル出身の歌姫、80年代のポップなブラコン作品。スティーヴ・ルカサー、シーウィンド・ホーンズ他が参加。

1945年(1943年説も)、ニュージャーシー生まれ、パティ・ラベルと共に組んだ女性コーラス・グループ、ブルー・ベルズ(後にラベルに改名)のメンバーとして1962年にデビュー。1974年の「レディー・マーマレイド」は全米・全英チャート1位に輝く。グループ解散後、CBS系のカーシューナからソロ・デビュー。本作はポップでブラコン・フレイヴァー溢れる3作目で、80年代的なアーバンなサウンドが味わい深い。デヴィッド・ラズリーのペンによる名バラード「サム・バディズ・エンジェル」をカバーしている。スティーヴ・ルカサー(g)やジェリー・ヘイ(tp)らシーウィンドのホーン隊などが参加。

SICP 4933

世界初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:林剛 |

ニュー・ダイレクションズ タヴァレス

New Directions Tavares

1982



「ディスコ天国」で知られる人気のファミリー・グループ、タヴァレスのRCA移籍第一弾。心機一転、ケニー・ノーラン他AOR人脈を起用した甘口AOR名盤。

1976年に「ディスコ天国(Heaven Must Be Missing An Angel)」でダンス・チャート1位を獲得するなど、ディスコ全盛期に一世を風靡したファミリー・グループ。本作はタヴァレス。本作はヴォーカル・グループとしての原点に立ち返ったRCA移籍第一弾。ジェイ・センターやケニー・ノーランなどAOR人脈がプロデュースし、ディスコ/フギーからスロウまでバランスよく収録。「アイ・ホープ」はビル・ラバウンティ&ジェイ・センター作品で、ビル・ラバウンティ自身の名作アルバム「涙は今夜だけに収録されていた。甘いスロウ・バラード「ベニー・ウォー・ユア・ソーツ」がシングル・カットされ、全米33位を記録。

SICP 4934

日本初CD化 | リマスタリング:2010年 解説:林剛 |

ワーズ&ミュージック タヴァレス

Words and Music Tavares

1983



シャラマーやウィスパーズをヒットさせ、飛ぶ鳥を落とす勢いのプロデューサー、レオン・シルヴァースⅢを迎え、西海岸流80'sダンス・サウンドを展開。

1976年に「ディスコ天国(Heaven Must Be Missing An Angel)」でダンス・チャート1位を獲得するなど、ディスコ全盛期に一世を風靡し、近年フリー・ソウル界隈からの評価の高い兄弟グループ。本作は実質的なラスト・アルバムとなった1983年作。当時SOLARレベルで大活躍していたレオン・シルヴァースⅢとその片腕的存在だったダナ・メイヤーズがプロデュースした初のダンス・サウンドと、持ち前のディープかつ滑らかなコーラス・ワークが融合された人気作。前作に続いてケニー・ノーランも参加。「ディーバー・イン・ラブ」(全米R&B10位)がシングル・カットされた。

SICP 4935

日本初CD化 | リマスタリング:2012年 解説:JAM |

ラヴ・アタックス オーテス・ファン・シェイク

Love Attax Oattes Van Schaik (a.k.a. The Limit)

1985



“オランダ版ホール&オーツ”と呼ばれた白人デュオによる唯一のアルバム。ザ・リミット名義で発表した80sダンス・ポップ「セイ・イエー」を収録。リリース当時“オランダのホール&オーツ”とも言われた、バーナード・オーテス&ロフ・ファン・シェイクの白人デュオ、ヨーロッパでは長い間ソングライター・チームとして活躍していたが、1984年にザ・リミットという別名義でグウェン・ガスリーのヴォーカルをフィーチャーした「セイ・イエー」を発表。この曲が全英チャート上位にランキングされ、一躍注目を集めた。アルバムは都合的でダンスサブルなテイストでまとめられているが、種上のバラード「エヴリソング・アバウト・ユー」も丸気な一曲。デヴィッド・サンボン(sax)、パティ・ウィリアムス(ds)、ウェイン・プラスウェイト(b)も参加している。

SICP 4936

日本初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

リール・ライフ ボーイ・ミーツ・ガール

Reel Life Boy Meets Girl

1988



ホイットニー・ヒューストンのヒット曲で知られるソングライター・チームの明るく爽やかなAORフィーリング溢れるポップ・アルバム。名曲「スター・トゥー・フォール」(全米5位)収録。

シアトル出身のジョージ・メリルとシンノ・ルビカムの男女デュオ。まずソングライターとしてホイットニー・ヒューストンに「ハウ・ウル・アイ・ノウ」(『すでにSomebody』)を提供して全米ナンパーワンを獲得。そのホイットニーのコンサート場に流れ星を見つけたことをきっかけに生まれたと言われる「スター・トゥー・フォール」は、美しいメロディーと共に全米チャート5位(アルバム・チャート10位)を筆頭に、世界的にヒットを記録。明るく爽やかなメロディーと2人のヴォーカルの掛け合いで、AORフィーリング溢れるポップ・アルバムに仕上がっている。名匠アフロマーチンがプロデュース。

SICP 4937

リマスタリング:2014年 解説:栗本音一 |

ジョナサン・バトラー ジョナサン・バトラー

Jonathan Butler Jonathan Butler

1987



南アフリカ出身のジャズ・ギタリスト/シンガー、初期の代表作。優しい歌声と澄み切ったギターの色で、全米チャートにもランキングされた「ライズ」収録!

1961年生まれ、南アフリカ・ケープタウン出身のギタリスト/シンガー。13歳の時にプロデューサーの目に留まり、ジャイヴ・レコードと契約し英国に移住。セカンド・アルバムにあたる本作からはヴォーカル曲の「ライズ」が全米27位にランキングされるヒットを記録し、翌年グラミー賞にもノミネートされた。アルバム制作にはアニタ・ベイカー作品で名高いバリー・イーストモンドが参加している。優しく暖かな歌声とどこまでも澄み切ったギターの色は今も人気が高く、マーカス・ミラー、ディオンヌ・ワーウィックなど一流アーティストと世界各地でコラボレーションを繰り返している。

SICP 4938

リマスタリング:2013年 解説:佐藤英輔 |

ゴーイング・ホーム ダン・シーゲル

Going Home Dan Siegel

1991



心地よいメロディーで西海岸のスムース・ジャズ・シーンを牽引するキーボード奏者の90年代の代表作。ケニー・ランキンをフィーチャーした「ネクスト・トゥ・ユー」収録。

西海岸をベースに現在も活躍するキーボード奏者。1980年にデビュー以来、「ロスト・イン・メモリー」(1982年)などこれまで約20枚のアルバムをリリース。スムース・ジャズ・フームの火付け役のひとつとも言われ、ラリー・カールトンらのプロデュースやスタジオ・ワークにも関わっている。1991年発表の本作はインスト・ランキング・ナンバーに交じり、3曲でケニー・ランキンのヴォーカルをフィーチャー。心地よくリラックスした歌声を聴かせる。他にも、アーニー・ワッツ(sax)、マイケル・ランドウ(g)、ヴィニー・カリウタ(ds)、エイブラハム・ラボリエル(b)らが参加。

SICP 4939

日本初CD化 | リマスタリング:2016年 解説:金澤寿和 |

アート・ガーファンクル	P13, 14	ネッド・ドヒニー	P06
アイ・テン	P16	バランス	P11
ヴァレリー・カーター	P08	バリー・マニロウ	P09
エアプレイ	P01	ビリー・オーシャン	P05
エンゲルベルト・フンパーティンク	P05	ビル・ウィザース	P04
オーテス・ファン・シェイク	P20	ビル・チャンプリン	P02
カーラ・ボノフ	P08	ビル・ヒューズ	P13
笠井紀美子	P18	ビル・ラバウンティ	P13
グレッグ・ギドリ	P12	ファー・クライ	P06
グレッグ・フィリンゲインズ	P04	フルズ・ゴールド	P15
ゲイリー・ポートノイ	P10	フェリックス・キャヴァリエ	P14
ケニー・ロギンス	P07, 08	ブリス・バンド	P05, 06
サラ・ダッシュ	P19	ブレイクウォーター	P18
サンタナ	P16	ブレイヤー	P16
J.D.サウザー	P06	ページズ	P15
ジェイムス・テイラー	P07	ベン・シドラン	P14
ジェラード・ケニー	P10	ボール・アンカ	P05
ジノ・ヴァネリ	P12	ポインター・シスターズ	P19
ジミー・ウェブ	P13	ボーイ・ミーツ・ガール	P20
ジミー・メッシューナ	P08	ボール・デイヴィス	P09
ジョナサン・パトラ	P20	ボズ・スキヤッグス	P01
ジョン・ヴァレンティ	P12	ホワット・イフ	P01
ジョン・ファラー	P10	マイク・フィニガン	P17
シルヴァー	P06	マイケル・ワイコフ	P18
タヴァレス	P19, 20	Mr. ミスター	P15
ダリル・ホール&ジョン・オーツ	P03	メリサ・マンチェスター	P17
ダン・シーゲル	P20	モーリス・ホワイト	P17
チャイナ	P02	ラモント・ドジャー	P17
ティオンヌ・ワーウィック	P03	ラリー・リー	P12
ディック・セント・ニクラウス	P12	ランディ・マイズナー	P07
ティン・ドナヒュー	P02	リヴィングストン・テイラー	P07
デニス・ウィリアムス	P03	ル・ルー	P11
ドウェイン・フォード	P02	ルー・ロウルズ	P05
TOTO	P11	レイ・パーカー Jr. & レイディオ	P04
トビー・ボー	P10	レス・デューテック	P16, 17
トム・スノウ	P10	ローラ・ニーロ	P14
ナイジェル・オルソン	P02	ロバート・クラフト	P14
ナイトフライト	P18, 19		



夏と、AORと、

なんでもない一日を、とびきりの一日に変える魔法のBGM。キラキラと輝く70～80年代のAOR～ウェストコースト系シンガー・ソングライターを中心にコンパイルしたベスト・オブ・ベストな永久保存盤

LIGHT MELLOW ONE DAY

7月27日発売 | 3枚組 SICP 4791～3

全57曲収録 | ¥3,000(税込)

選曲・監修: 金澤寿和 (www.lightmellow.com)

 Sony Music Japan International